

可認局遞驛

明治二十年一月二十二日發兌

第壹年級

英吉利法律講義錄

第十九號

英吉利法律學校



目次

○ 刑 法

法學士 江 木 衷

○ 法 學 通 論

法學士 山田喜之助

○ 動 產 委 托 法

(第十七號
ノ續キ)

法學士 元 田 肇

○ 判 決 錄

法科大學
卒業生 植 村 俊 平

○ 日 本 刑 法

(第十六號
ノ續キ)

法學士 岡 山 兼 吉

○ 英 國 刑 法

(第十三號
ノ續キ)

法學士 澁 谷 慥 爾

○ 訴 訟 法

法學士
パリストル 增 島 六 一 郎

○ 經 濟 學

駒 井 重 格

日本刑法

法學士 江木 衷 講義

校 友 畔 上 啓 策 編 輯

緒言

緒言

法律ノ學問ハ基タ六ヶ敷キモノタルハ諸君ノ熟知セラル、所ナルヘケレト刑法學ハ其ノ六ヶ敷學問ノ中ニテ又最モ六ヶ敷學問ナリ日本ニハ刑法ト云フ成典アレハ刑法ヲ學フハ民法其他成文ナキ法律ヲ學フヨリ容易ナルカ如クニ思フモノアレトモ予ハ成典アルガ爲メニ猶更困難ノ學問ニ成リタルコトト考ヘ且又日本ノ中ニハ如何ナル大學者カアルカハ知ラネド刑法ヲ以テ簡易ノ學問ノ如クニ思フハ却テ其人ノ淺識ヲ披露スルニ異ナラスト心得居ルコトナリ幸ニシテ本校ニハ岡山先生アリ例ノ活潑銳利ナ

ル腦髓ノ分析カヲ以テ日本刑法ヲ講述セラレ縱横上下右往左往
ニ法理ノ蘊奧ヲ敲キ出シ我刑法ノ學問上ニ一大利益ヲ與ヘラル
、コトナレトモ先生ノ多忙ナルハ余ノ熟知スル所ナレハ未タ之
ヲ以テ先生ノ自ラ足レリトセラル、コトナキヲ信ス是レ余カ此
講筵ニ臨ンテ更ニ日本刑法ヲ講セシトスル所以ナリ淺學薄識素
ヨリ岡山先生ノ萬一ノ遺漏ヲ助クルニ足ラスト雖モ余カ重復ノ
講義ニシテ或ハ諸君ヲシテ刑法ノ學理ヲ妄失セシムルコトナキ
ヲ得ハ余ノ大幸トスル所ナリ諸君ノ學成リ業卒ツテ本校ヲ去ル
ノ日ニ臨ミ本校カ諸君ヲシテ刑法ニ通曉セシメタリトノ榮譽責
任ハ予ハ舉テ之ヲ岡山先生ノ勞ニ歸セントス
余カ講義ノ目的斯ノ如クナルヲ以テ諸君ハ余ノ講述ニ依頼セス
シテ自ラ學理ヲ研究スルコトヲ勉メサル可ラスト通リ日本刑

法ヲ講シタル著書ハ世ニ少ナカラサレハ講義ニ先テ刑法ノ正條
 ト此等ノ著書ヲ一讀セラル可シ即チ刑法學ノ善知識トテ吾モ人
 モ知ル宮城先生ノ刑法講義堀田先生ノ刑法釋義尙ホ手輕ナル者
 ハ高木先生ノ刑法義解等何レモ言分ナキ良書ニシテ皆ナ本校ノ
 書籍室ニ備ヘアルコトナレハ諸君必ス熟讀ヲ怠ルコト勿レ

刑法諸主義

刑法主義ヲ論スル前ニ刑法ノ沿革、刑法ト他ノ法律トノ關係、其他論ス
 ヘキモノ數多ニシテ今突然刑法主義ヨリ論シ起スハ頗ル其ノ順序ヲ
 失シタルモノニ相違ナキモ講義ノ時日ニ定限アレハ余ハ全體此等ノ
 緒論ヲ全廢シ直チニ刑法ノ正文ニ論及セントスルモノナレトモ刑法
 主義ハ通常一般ノ著書中ニモ散見シ人口ニ膾炙スル所ナレハ今茲ニ
 一言ノ注意ヲ爲スニ過キス其ノ詳細ヲ論シ盡サント欲セハ刑法主義

① Absolute theories
 ② Relative theories
 ③ Combined theories

絶体主義

ノ一事ニ一學年ヲ要スルモ亦未タ足ラサルヘシ

刑法主義ニ數多アルハ諸君カ已ニ諸書ニ於テ熟讀セラレタルコトナ
 レハ今玆ニ論スルコトナシト雖モ諸君ノ學ヒタル此等諸主義ヲ大別
 スレハ自ラ左ノ三種ニ過キストス

第一 絶体主義

第二 相對主義

第三 折衷主義

第一 絶体主義

絶体主義トハ則チ刑ハ刑ナリト云フモノニシテ他ニ刑罰ノ目的ナキ
 モノトスルモノナリ此種ニ屬スル所ノ主義ニ二様アリ
 其一 治癒主義

犯罪ヲ罰スルハ其ノ罪ヲ癒エシムルニ外ナラストスルヲ以テ其ノ主

^Indemnity theory
εRetribution

ⓂHealing theories
ⓂRescission theory

義トス而シテ今治癒ト云フトキハ相對主義ノ一ナル改良主義ト同シ
様ニ思ハルレトモ改良主義ニ於テハ人間ヲ改良スルコトヲ目的トス
レトモ治癒主義ニ於テハ犯罪ヲ改良シ刑罰ハ只タ其罪ヲ癒エシムル
モノトスルヲ云フ此治癒主義ノ中ニ又二主義アリ(甲)ハ復舊主義ニシ
テ獨逸有名ノ學者キユツツ氏ノ主張セシモノナリ此主義ハ罪人ヲ罰
スルニハ舊ニ復スルナリト即チ最初有セシ正理ヲ破ル者ハ犯罪人ナ
リ之ヲ罰スルハ其人ヲ舊ニ復シテ罪ナキニ至ラシムルモノナリトス
(乙)ハ賠償主義ニシテ凡ソ損害ヲ受ケタルトキハ裁判所ニ訴ヘ民事ノ
賠償ヲ要ムルト同シク刑罰ハ犯罪ヲ賠償スルモノトス只タ民事ニ於
テハ實物上ノ賠償ナルト刑事ニ於テハ無形的ノ賠償ナルトノ差異ア
ルモノトスルナリ

其二 應報主義

刑 注

五

五

相對主義

應報主義ニ於テハ正理ニ背キタルコト卽チ不正ノ所爲ニハ之レカ應報ナカル可カラス刑罰ハ其不正ノ所爲ヲ埋メ合シ満足セシムルモノトスルナリ或ハ之ヲ純正主義ト云フ此主義中ニ三派アリ(甲)ハ神ノ命令ニ背キタル應報(乙)ハ道德ノ命令ニ背キタル應報(丙)ハ法律ノ命令ニ背キタル應報ナリトスヘーゲル、カント氏ノ如キ有名ノ哲學者ノ主張セシモノ卽チ是ナリ

第二 相對主義

相對主義ヲ講スル前ニ一言ス可キモノアリ諸君モ知ラル、如ク世上民約主義ヲ唱フルモノアリ此主義ハ伊太利ニ於テハベツカリヤ獨逸ニ於テハフヒテ佛蘭西ニ於テハルソーノ諸氏盛ニ之レヲ主張セリ然レトモ此說ノ採ル可ラサルコトハ此ニ余輩ノ駁スル迄モナク既ニ人皆ナ之ヲ知レリ此主義タル最早刑法上ニ齒セラレサルモノナリ

却說相對主義ニ於テハ絶体主義トハ異ニシテ刑法ハ何カ目的アリテ其目的ヲ達スル爲メニ存スルモノニシテ決シテ刑ハ刑ナリト云フカ如キ單純ナルモノニアラストス此種ノ主義ハ概ネ國家ノ治安社會ノ安寧ヲ維持スルヲ以テ其目的トスレトモ此目的ヲ達スル方法ハ又各々相異ナリ各一派ノ主義ヲ爲ス即チ懲嚇主義、警戒主義、必要主義、豫防主義、改良主義等諸君ノ常ニ耳ニセラル、所ニシテ今更ラ予カ講述ヲ要スルコトナキモ此等各主義中ニモ亦數多ノ小派アリ皆ナ有名ナル刑法大家ノ主張スル所ナリ故ニ第三種即チ折衷主義ノ學者ノ駁論スルカ如ク容易ニ其論據ヲ破リ得ヘキ拙劣ノ主義ニアラサルコトヲ注意セラルヘシ

第三 折衷主義

折衷主義トハ他ノ刑法講義書ニモアル如ク之レハ相對主義ト絶体主

義トチ連合セシモノナルヲ以テ絶体主義ノ其一ト相對主義ノ其一ト
 チ合スルコトヲ得又其二三若クハ悉皆チ併合セシムルコトヲモ出來
 得ルモノナリ故ニ其主義ハ種々様々ニ變化シテ數理上所謂排合式ニ
 依リ多數ノ折衷主義ヲ發生スルヲ得レトモ今日普通ニ稱スル所ノ折
 衷主義ナルモノハ其折衷ノ定限ニ確タル境界ナクシテ大ニ漠然タル
 所アリテ遙ニ其他ノ主義ニ劣ルノミナラス此折衷主義ナル者ハ其理
 論上ニ於テモ余ハ甚タ感服スルニ足ラサルモノナレトモ兎ニ角我刑
 法ハ此折衷主義ニ基キタルモノト聞ク而シテ我カ刑法ノ所謂折衷主
 義ナル者ハ果シテ如何ナルモノナルヘキヤ我カ國諸學者ノ説ク所ハ
 概子疎末ニシテ更ニ其詳ナルヲ知ルニ由ナク又我刑法ノ條文ヲ見ル
 ニ如何ナル點カ果シテ折衷主義ニ出テタルカ余ハ折衷主義ハ即チ無
 主義ナラサルカヲ疑ハサルヲ得ス我カ國ノ刑法學者漠然トシテ折衷

モ贈與ハ依然トシテ成立スルモノナリ此等ノ所爲ハ法律上之ヲ以テ復面取引ト爲サスシテ單面取引ナリトス

以上述フル處單面取引復面取引ハ佛蘭西學者ノ片務契約雙務契約ト譯スルモノト其原語同一ナリト雖モ只便利上斯ク異譯シテ誤認ヲ牽起セサランコトヲ豫防セルモノナリ今之ヲ例解センニ片務契約トハ一方ノ者ニ義務アリテ一方ノ者ニ義務ナシ又雙務契約トハ對手雙方約シテ雙方義務ヲ負フモノヲ云フ譬ヘハ甲者乙ナル商店ニ行キ其店頭ノ或物品ヲ購求シテ曰ク代價ハ三十日ニ仕拂フヘシト此場合ニ於テ甲者ハ三十日ニ至リ其代價ヲ仕拂フノ義務ヲ負フト雖トモ乙者ハ毫モ義務ナキナリ之ヲ片務契約ト云フ又雙務契約トハ例ヘハ甲者乙者ニ向テ何日迄ニ洋服ヲ仕立ルコトヲ約セリ乙者ハ其日限ニ洋服ヲ仕立ツ可キ義務アリテ甲者モ亦代價ヲ仕拂フヘキ義務ヲ負ヘリ佛法

取引ヲ有効ナラシムルニハ其取引ニ必要ナル意思ヲ自由ナラスル

ノ此區別ハ暫ク措クトスルモ法律上此區別アルコトハ知ラサル可カ
ラス今之ヲ短言セハ雙務契約トハ片務契約ノ二箇集合シタルモノナ
リ以上ハ單面取引復面取引ト片務契約雙務契約トノ區別ヲ説明セリ
凡テノ取引中對手雙方ノ一致スルモノヲ合意ト稱ス即チ合意ハ一種
ノ取引ニシテ契約ト異ナルモノナリ此區別ハ契約法ニ於テ諸君ノ研
究セラル、處ナランカ要スルニ合意トハ雙方意志ノ一致合同スル取
引ヲ云フモノニシテ英語ニ之ヲ「エグリートメント」ト云フ即チ契約ヨリ
廣キ語ナリ

○取引ヲ有効ナラシムルニハ其取引ニ必要ナル所
ノ意思ノ自由ナルヲ要ス

前段ニ於テ取引ノ事ヲ説明セシカ是レヨリハ其取引ノ有効ナリヤ又
無効ナリヤト云フ事ニ付推考セサル可ラサル條件ヲ陳述セントス

取引ニハ意思ヲ要スルハ論ヲ待タスシテ而カモ其意思ハ自由ナルヲ要スサレハ他人ヨリ脅迫セラレテ余義ナク同意シ或ハ己レノ事實上ノ不知ヨリシテ意思ノ自由ニ瑕瑾アルトキハ其取引ハ無効トナルコトアリホロク氏ノ説ニ從ヘハ自由ノ意思ヲ妨クル者ニ二種アリトス

第一ノ事實ノ不知

第二ノ意思ノ自由ヲ妨クル恐怖ノ心或ハ依頼心

第一ノ場合ニ亦二種ノ區別アリ

(甲)他ノ對手人ノ所爲ニ原因セサルモノ則チ錯誤(第一)

(乙)他ノ對手人ノ所爲ニ原因セルモノ則チ不實陳述或ハ詐僞(第二)

第二ノ場合ニ亦三種ノ區別アリ

(甲)他ノ對手人ノ所爲ニ因ラサルモノ(第三)

(乙)他ノ對手人ノ所爲ニ因リタルモノ(第四)

(丙)他ノ對手人ノ地位又ハ身分ニ因リタルモノ (第五)

以上ノ要件ニ付説明センニ第一第二ノ甲乙丙ヲ通シテ五項トナシ先ツ第一ノ場合ヨリ始メントス

(第一)他ノ對手人ノ所爲ニ原因セサルモノトハ如何ナル事ヲ云フソト云フニ對手ノ一方ニ於テ何等ノ惡シキコトヲナサス又何等ノ不信實ナルコトヲナサスシテ唯一方ノ者ノ誤解ヨリ來ル者ヲ云フ則チ甲ノ店頭ニ眞鍮ノ煙管ヲ飾リ置シテ見テ乙ハ之ヲ金ノ煙管ナリト思ヒテ買取リタリトセンカ店主甲ハ眞鍮ヲ金ノ如クニ見セ懸ケントシタルニ非ス又見セ懸ントノ手段ヲ用ヒタルニモアラスシテ乙ノ之ヲ金ナリト思ヒシハ全ク乙其レ自カラノ不知ニ因ルモノトス

(第二)之レヲ小別シテ不實ノ陳述及詐偽ノ二トス不實ノ陳述トハ惡意ナク錯誤シタル場合ヲ云フ則チ眞鍮ノ煙管ヲ金ノ煙管ナリト錯誤シ

之ヲ買手ニ勸メタルカ如シ此レ必竟他人ヲ欺ク辟心アリテ然カ云ヒ
タルニ非ス自カラ信シテ金ナリトシ以テ買手ヲ勸メタルナリ詐僞ト
ハ之ニ反シテ惡意アリテ不實ノ陳述ヲナシタル場合ヲ云フ則チ眞鍮
ノ煙管ヲ金ノ煙管ト僞リ以テ買手ヲ欺キタルカ如シ

(第三)他ノ對手人ノ所爲ニ因ラサル者トハ例ヘハ松藏ト竹藏トノ取引
ニ於テ松藏ハ敢テ竹藏ヲ威サントスル意思ナキモ其顔付四角張り甚
恐ルヘキ容アルカ爲メ偶然竹藏ヲシテ恐怖セシメタルカ如キ場合ヲ
云フ則チ竹藏ノ恐怖ハ松藏ニ惡意アリテ原因シタルニアラサルナ
リ

(第四)他ノ對手人ノ所爲ニ因リタル者トハ(第三)ノ場合ニ反對シテ對手
一方ノ恐怖ハ他ノ一方ノ惡意ニヨリ之ヲ威シタルニ起因セル者ニシ
テ之ヲ脅迫又ハ威迫ト稱ス

Void.

Voidable.

(第五)他ノ對手人ノ地位又ハ身分ニヨルモノトハ例ヘハ小兒ノ金ノ煙管ヲ所持シタルヲ見テ父兄其他ノ長者カ騙シテ之ヲ奪取シタルカ如シ別段之ヲ威セルニ非スト雖モ他ノ對手人ノ身分ニヨリ自ラ有セル勢力ヲ不正ニ用ヒタルナリ

以上ニ述タル第一及第二ヲ總括スルトキハ五ヶ條トナル此五ヶ條タルヤ凡テノ取引ヲシテ無効トナスニ非ス然ラハ如何ナル結果アリヤト云ヘハ則對手ノ一方ナル被害者ニ於テ其取引ヲ無効トセントスルトキハ隨意ニ無効トナシ得ヘシト云フニ止マリ此條件アルカ爲メ初メヨリ無効ナルニハ非ス則前例ニ於テ眞鍮ノ煙管ヲ金ノ煙管ト偽リ賣買シタレハトテ其取引ハ無効ナリト云フヲ得ス何トナレハ買主ニ於テ一度ハ其虛ニ驚キタルモ如何様是ハ名作ナレハ買置クヘシトアルトキハ其取引ハ勿論有効ナレハナリ然レトモ買主ニ於テ其欺カレ

タルコトヲ覺知シ其取引ヲ打テ消シタルトキハ初メノ賣買ハ全ク無効タルヘシ乍併無効トナシ得ル故ヲ以テ初メヨリ無効ト云フヲ得ス以下順次ニ講述セン
第一錯誤

單純ナル錯誤ハ法律上何等ノ結果ナキモノニシテ則對手人ノ雙方又ハ一方ニ於テ錯誤ノ意思アリトモ其レカ爲メ取引ハ無効トハナラス例ヘハ古道具屋ノ桶ニ基石ヲ入レタルアリ賣主ハ未タ其數ノ幾許アリヤヲ知ラス買主ニ於テモ亦其數ヲ算セスシテ凡若干箇有ルモノナラント見積リテ買取リタリトセンニ後ニ至リテ能ク之ヲ計算シタルニ案外其數寡ナカリシト雖モ其取引ハ無効ナラサルナリ即チ錯誤ハ通常取引ヲ無効トナス勢力ナシ然レトモ何レノ場合モ例外アルモノニシテ錯誤モ亦必ス取引ヲ無効ナラシメスト云フニ限ラスサレハ錯

誤モ左ノ場合ニ於テハ取引ヲ無効トナスノ勢力アリ
 例外(其一)ハ根本ノ錯誤ナリ根本ノ錯誤トハ取引ノ必要點ニ付錯誤アリタルモノヲ云則チ取引ノ必要點ハ取引ノ雙方一致セサル可ラサル者ニシテ例ヘハ是レハ金ノ煙管ナリト云フテ賣買シタルトキハ其金ト云フコトハ則取引ノ根本ニシテ其煙管ノ目方五匁或ハ七匁ト云フコトハ根本ニアラサルナリ尤モ此レモ双方承諾ノ上ナラハ根本トナヘキナリ

(其二)事實ノ錯誤ヨリ仕拂フニ及ハサル金錢ヲ仕拂ヒタル場合例ヘハ甲ニ拂フヘキ義務アリテ之ヲ拂ハント思ヘル際恰モ乙ナル者來レルアリ其容貌ノ甚タ甲ニ似タルヲ以テ即甲ナリト心得之ニ金錢ヲ拂ヒ渡シタルヲ云如此ナルトキハ乙ニ對シテ其金錢ヲ取戻シ得ラルヘシ
 第二不實ノ陳述及詐僞

(甲)不實ノ陳述トハ通常取引ニ密接ノ關係ヲ有スルモノナリ乍併單純ナル不實ノ陳述ハ通例法律上何等ノ効果ヲ生セスト雖モ特別ナル取引ノ性質ニヨリ對手人ノ一方殊更ニ他ノ一方ニ向ツテ信實ナル取扱ヲ爲サル可ラサル場合アリ則チ組合員相互ノ間又ハ保險會社ト保險人間ノ如キ是ナリ此等ノ外ハ通常取引ニ何等ノ瑕瑾ヲ附セス假令不實ノ陳述アルモ其取引ハ無効タラス

(乙)詐僞トハ不實ノ陳述ニ加フルニ惡意ヲ以テスルヲ云則チ詐僞ニ係ルノ契約ハ無効トナスヲ原則トス

第三恐怖

恐怖ハ法律上何等ノ結果ヲ生セス則他ノ對手人ノ所爲ニ原因セサル恐怖ハ先方ニ於テ惡手段ヲ用ヒスシテ己レ自カラ恐怖シタルモノナレハ何等ノ效能ナク其取引ハ充分成立スルモノナリ

第四脅迫

脅迫トハ通常身体ニ危害ヲ加ヘントスルノ形容ニシテ則他人ノ身體ニ恐ルヘキ脅迫ヲナスヲ云フサレハ危害ヲ加ントスルニアラスシテ實際危害ヲ加ヘ或ハ打タントスルノ形容ニアラスシテ既ニ之ヲ打チタルトキハ疾ク已ニ脅迫ノ限界ヲ超過シタルナリ之ヲ稱シテ脅迫ト云フ可ラス此脅迫ニ因リ取引ハ無効トナスヘシト雖其脅迫ハ之ヲ受クル者其レ自カラカ或ハ妻子一族ノ身體ニ係ルモノナラサル可ラス例ヲ以テ之ヲ示セハ今若シ之ヲ與ヘサレハ吾汝ノ朋友ヲ殺サント云ヒ或ハ汝ノ親族ヲ戮セント云フカ如キハ法律上所謂脅迫ニハアラサルナリ此脅迫ハ身体ニ關スル事ニシテ財産ニ對シテハ法律ハ脅迫ト見做サ、ルナリ例ヘハ之ヲ與ヘサレハ汝カ庭園ノ松ヲ伐ラント云フトモ之ヲ以テ脅迫ト云フ可ラス然リ而シテ財産ハ貴重ナル者ナレハ

對手人ノ
意思ヲ表
明スルコト

脅迫中ニ加ヘサル可ラスト云フ論者アレトモ此論未タ確定セスサレ
ハ今日ノ處ニテハ身体ニ關スルモノニ非レハ脅迫ノ効ナシトス
第五地位又ハ身分ヨリ得タル不正ノ勢力

地位又ハ身分ヨリ得タル不正ノ勢力トハ則親子或ハ夫妻ノ間ノ如ク
別段腕力ヲ用ヒサルモ一方ハ他ノ一方ニ對シ不正ニ勢力ヲ得ル場合
ヲ云フ此法律ハ大切ノモノニシテ何レノ場合ニテモ取引ヲ無効トナ
スニ非ス英國ニテハ衡平法ニヨリ不正ノ勢力ニヨリタル取引ヲ無効
トナスコトアリ然レトモ一般ニ取引ヲ無効トナスト云フ可ラス

○對手人ノ意思ヲ表明スルコト

對手人ノ意思ハ外面ヨリ之ヲ斷定セサル可ラス凡テ所爲アリテ其所
爲カ權利義務ノ媒介物トナルモノニテ假令内心ハ如何ナレハトテ之
ヲ外面ヨリ斷定スヘキモノニ非サレハ權利義務ヲ生スル能ハス例ヘ

ハ甲カ乙ノ財産ヲ奪取スルトキハ乙ハ甲ヲ訴フル權利ヲ得ヘシ則チ
 乙ノ訴權ハ甲カ其財産ヲ奪取シタル所爲ヨリ生シタル者ナリ然レト
 モ爰ニ言フヘキコトハ乙ノ訴權ハ甲ノ之ヲ得セシメタル者ナレハト
 テ之ヲ單面取引トハ云フ可ラス又甲自殺シタルトキハ乙ニ相續權ヲ
 生スヘシ則チ乙ノ相續權ハ甲ノ自殺シタル所爲ニ基クモノナリ然レト
 モ此レ亦法律上單面取引ト云フ可ラス

此ノ意想ヲ表明スルニ別段式ヲ要スルモノト要セサルモノトアリ其
 式ヲ要スルモノヲ有式ノ取引ト云ヒ其式ヲ要セサルモノヲ無式ノ取
 引ト云フ

通常ノ取引ハ凡テ無式ノ取引ナレトモ或場合ニ於テハ式ヲ要スルコ
 トアリ抑法律ニ於テ有式ヲ定ムル所以ハ何ソヤ曰ク確實ヲ保ツト證
 據ヲ永久ニ存スルトニ在リ故ニ今其式ノ一二ヲ示スモ敢テ無用ナラ

別ナリト云フヘシ然レトモ注意ノ程度ヲ論スルニ至テハ多少繁雜ヲ増スノ恐アリ如何トナレハ無賃委託ノ中ニモ受托者ノ爲ニスルト委託者ノ爲メニスルトニ從ヒ大注意ヲ要スルト小注意ヲ以テ足レリトスルノ差異ヲ生スレハナリ故ニ注意ノ點ヨリ大別スレハストリー氏等ノ如ク類別スルヲ便トシ報酬ノ有無ヨリスレハスクーラー氏ノ如クスルヲ可トスヘギニ似タリ諸君宜シク其是非ヲ考究スヘキナリ動産委託法ノ總論ニ屬スヘキモノハ前回マテニテ講了セリ仍テ今回ヨリハ委託法ノ本論ニ入ラントス而シテ其順序ハ前回ニ於テ示シタル如クストリー氏ノ説ニ從ヒ先ツ第一ニ無賃委託ヨリ講述ヲ始ムヘシ

第二編 無賃委託

第一章 無賃委託ノ定義及羅馬法ノ區別

「デボシット」即チ無賃委託トハ報酬ナク物ヲ預リ其約束又ハ委託者ノ需ニ應シ委託者又ハ其指示スル第三者ニ之ヲ返戻スヘキノ受託ヲ云フ語ヲ換テ一方ヨリ之ヲ言ヘハ無賃ニテ或ル時限間己ノ爲メニ他ニ物件ヲ預クルヲ云フナリ故ニ無賃委託ニ於テノ要素ハ第一ニ委託者ノミノ利益ノ爲メニ寄託物ヲ保管スルコト第二ニ無賃即報酬ナキコト是ナリ

抑「デボシット」ナル語ハ羅馬法ヨリ來リシモノニシテ羅馬法ニ於テハ更ニ之ヲ種々ニ區別セリ今其重モナルモノヲ舉クレハ「子セスサリ」デボシット「即必要的無賃委託」ボランタリ「デボシット」任意的無賃委託「イムボランタリ」デボシット偶生の無賃委託等是ナリ

必要の無賃委託トハ譬へハ破船水火災等ノ場合ニ於テ委託者時機前後ヲ顧ミルニ遑アラス其所持品ヲ他へ預クルカ如キ罹災ヨリ生スル

委託ヲ云フ故ニ又之ヲ名ケテ不幸の無賃委託トモ云フ
任意的無賃委託トハ通常一般ノ寄托ニシテ即チ委託者受托者雙方充
分ノ合意約諾ニ成ルモノナリ
偶生の無賃委託トハ譬へハ甲ノ物乙ノ地内ニ水ノ爲メニ流寄り又ハ
丙ノ物丁ノ地ニ風ノ吹送ル所トナリシ如キ場合ニシテ始メヨリ雙方
ハ約諾アルニ非ス事偶然ニ出ルモノナリ
羅馬法ニテハ右ノ外尙ホシムブルデボシツト及セクエストレーシヨ
ンノ別アリシムブルデボシツトトハ一人又ハ數人ノ委託者委託物件
ニ付共同ノ利益ヲ有スル場合ニシテセクエストレーシヨントハ各委
托者ノ間其權利互ニ相抵觸スル時ノ委託ヲ云フ譬へハ爰ニ甲乙共有
ノ物件ヲ丙ニ委託セハコレシムブルデボシツトナリ又爰ニ委託品ア
リテ甲ハ自己ノ取戻シ得ヘキモノト主張シ乙モ亦己レカ權利ヲ有ス

ルモノナリト相争フ如キ場合ノ委托ハセクエストレーションナリ而シテ又此セクエストレーションニモ裁判所ノ命令ニ出ルト各委託者ハ承諾上ヨリ其争論ノ決局迄他ニ保監ヲ頼ムトノ別アリキ

蓋シ羅馬法ニ在リテ斯ク區別ヲ要セシ所以ハ他ナシ其區別ニ從テ訴訟手續ヲ異ニシタレハナリ然レトモ英法ニハ此必要ナシ故ニ羅馬法ノ彼ニ當ルトカ此ニ當ルトカ比照論述スルコトハアレトモ英法ニ於テ無賃委托ヲ細別セシモノアルヲ見ス但シ羅馬法ノ偶生的無賃委托ナルモノハ英法上或ハ之ヲ準無賃委托ト稱シ他ノ純乎タル無賃委托ト區別スルモノアリ蓋シ穩當ノ類別ナリト云フヘシ

又爰ニ一言スヘキコトアリ即羅馬法ニ所謂「ミユウチュアム」ナルモノト「デボシット」トノ別是ナリ蓋シ「ミユウチュアム」トハ我ヨリ他ニ某ノ物件ヲ貸與シ彼レ亦我ニ同一様ノ物件ヲ以テ返戻スルヲ謂フ故ニ「ミ

ユウチユアム」ニ於テハ單ニ所持ノ權ノミナラス其引渡シタル物ノ所有權モ俱ニ轉移スレトモ「デボシット」ニ於テハ前ニ述ヘタル如ク受托者唯其受托物ヲ保護スルニ止ルヲ以テ所持ノ權ハ移レトモ所有權ハ尙委託者ニ存スルナリ

以上英法ニ於ル無賃委託ノ定義并ニ羅馬法上ノ區別等ヲ講述セリ就テハ以下ニ此無賃委託契約ノ對手、目的物件、必要條件、契約ノ終結、該契約ヨリ生スル受托者ノ義務、其終期等ヲ逐章講明セン

第二章 對手

凡ソ委託ノ契約ヲナス對手ヲ委託者及受托者トナスコトハ已ニ諸君ノ知悉スル所ナリ而シテ無賃委託ノ場合ニ於テハ此委託者又ハ受托者タルヘキ人ニ別ニ制限アルコトナシ、即チ一般ニ何人ニテモ委託者又ハ受托者タルヲ得ルモノトス但シ無賃委託ト雖モ他ノ取引ニ等シ

ク一ノ契約タルヲ以テ法律上契約ヲ結フノ能力アル者ニ非サレハ其
 結約ノ効ナキコト勿論ナリトス即チ未丁年者現ニ人ノ妻タル者及ヒ
 白痴瘋癲等ノ如キコレ其取除ナリトス

蓋シ此等ノ不能力者ニ關スル事柄ハ契約法ノ講義ニ於テ十分説明セ
 ラルヘキ所ナレハ今爰ニ一々之ヲ講述セス唯左ニ委託ニ關スル適切
 ノ場合ヲ畧述スヘシ

第一 未丁年者ハ元ト契約ヲ結フノ能力ナキモノナルニ付其シ無
 賃委託ノ約ヲナシタルニモセヨ其効ナキハ勿論ニシテ是ニ由リ
 檢束サルヘキ義務ヲ生セサレトモ是又左ノ取除アリトス

一 現ニ未丁年者ニ於テ受托物件ヲ所持スル時

二 惡意ヲ以テ受托物件ヲ損害シタル時

三 委託ノ事柄却テ明カニ幼者ノ利トナル時又ハ其日用必要的

ノ、物、件、ニ、關、ス、ル、時

右第一ノ場合ニ於テハ未丁年者ト雖モ之ヲ返戻セサル可ラス第二ノ場合ハ其損害ノ責ニ任セサル可ラス第三ノ場合ハ其契約ノ効アルヘシ

又未丁年者カ他ノ丁年者ニ向テ委託ノ約ヲナストキハ受托者タル丁年者ハ幼者ニ於テ之ヲ解約スルニ非サレハ委託者未丁年者ナリトノ故ヲ以テ其契約ヲ無効トスルヲ得サルナリ

第二 現ニ人ノ妻タル者ノ結ヒタル契約ハ其夫ノ承諾ニ出テサル限ハ法律上契約ノ効力ヲ生セサルコト是又一般ノ定則ナリ然レトモ若シ現在妻ノ受托所持スル所タル上ハ其夫ニ於テ之ヲ受托者ニ返還スルノ義務アルヘシ又人ノ妻タルモノヨリ寄托ヲ受ケタル者ハ之ヲ其夫ニ返戻スルノ責アリトス

以上二者ノ例則ニヨリ其他ハ推知スルニ足ラン而シテ右列舉セシ所
ハ佛法ニテモ大體同一ナルカ如シ唯羅馬法ニ於テハ多少ノ差異アレ
トモ必要ナラサルヲ以テ爰ニ述ヘス

第三章 目的物件

英法ニ於テ委托ノ目的トナルヘキ物件ハ動産ニ限レリトス但シ其有
形無形タルヲ問ハサルナリ是點ニ就テハ大ニ佛法ト差異アリ蓋シ佛
法ニテハ委托ノ目的タルヘキモノハ有形ノ動産ニ限レリトシ夫ノ證
券ノ如キモノハ其記スル所ノコトハ無形ナレトモ證券ハ有形ナルヲ
以テ猶ホ之ヲ目的物トナスヲ得ヘシトスルニ在リストリー氏ハ此區
別ヲ評シテ頗フル微妙ニ涉レリト雖モ證券ノ紛失ニ對シテハ要償ヲ
ナシ得ヘキニ付實際ニ於テ些少ノ必要アルヲ見スト云ヘリ蓋シ適實
ノ說ト云フ可シ

委託ノ主件タル寄託物ハ必スシモ委託者ニ所有權アルヲ要セス所持
權アレハ充分ナリトス故ニ不正ノ所爲ヲ以テ得タル物件ニシテ毫モ
權利ヲ有セサル者ト雖モ法律上之ヲ委託スルノ權利アリトス但シ其
眞正ノ所有者出現シ反求スルノ場合ニ至リテハ之ニ托シ其委託物件
ノ取戻ヲ要スルヲ得ス蓋シ羅馬法ニテハ強取又ハ竊取シタルモノニ
テモ委託ノ目的物件トナスヲ得ヘシトセリ然レトモ受託者ハ其不正
ノ物件タルヲ證明シテ之ヲ返還セサルコトヲ得ルモノトス但斯ル場
合ト雖モ若シ正當ノ所有主ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ拒ムヲ得ス
又右ノ如キ寄託物カ不正ノ手段ニヨリ相轉帳シテ數人ノ手ニ涉ルコ
トアリ斯ル場合ニ於テモ正當ノ所有主ハ何處マテモ追求スルコトヲ
得ルモノトス

複托ノ場合ニ於テ所有主ヨリ直接取戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ複受

托者ハ複托者ヲ引合人トシテ其果シテ何レハ返戻スヘキヤヲ爭ハシ
 ムルコトヲ得譬ヘハ甲ハ乙ニ或物ヲ寄托シタルニ乙又之ヲ丙ニ寄托
 スル場合ニ方リテ甲ヨリ丙ニ向テ寄托物ヲ要求シタルトキノ如シ蓋
 シ乙ノ丙ニ寄托スル正當ノ手段ニ出ツルトキハ丙ハ乙ニ對シテモ返
 戻ノ義務アレハナリ
 又或ハ錯誤ニヨリテ自己ノ所有物ヲ他人ヨリ預ルコトアリ此ノ如キ
 場合ニハ返戻ノ義務ナシ然レトモ該物件上ニ幾分ノ權利ヲ他人ニ許
 セシ場合譬ヘハ抵當物ニ差入レタルトキノ如キハ自己ノ所有物ヲ預
 リタルモノト雖モ尙ホ返戻ノ義務アルモノトス
 主タル物件ヲ寄托スルトキハ必ス從タル物モ寄托シタルモノト看做
 スヘキヤ是レ必スシモ然リトセス唯結約者雙方ノ意思ニ依テ定ムル
 モノトス例ヘハ鞍付キノ馬ヲ寄托スルカ如シ馬ト共ニ寄托セルモノ

自分ハ嘗テ以前ニ被告ノ承諾ナシニ他人ノ綿ヲ運搬セシコトナシ然
 レトモ本件ノ事實ニ際シテハ假令最初ヨリ被告ノ同意ナキモ原告ノ
 綿ヲ積込トモ差問ヘナカラント思ヒタルヲ以テ原告ノ委託ヲ受ケタ
 リト

始審裁判
 判決

(始審裁判判決)

始審判事陪審官ニ告ケテ曰ク凡内地ノ河流ニ在ル
 舟ノ船長ハ一般ニ積荷證書ニ調印スルノ習慣ナリ此習慣ヲ以テ一般
 普通ノ者トセハ船長ハ充分ニ積荷ヲ約スル委任權ヲ帶タル代理人ト
 見ルヘシ故ニ果シテ此權ヲ與ヘサラントセハ明ニ之ニ命令ヲ與フル
 カ又ハ世間一般ニ對シテ積荷證書ニ調印スルノ權ナキコトヲ示スカ
 將タ之ヲ得意先キニ通シタルカ或ハ荷主ト船長トノ間ニ於テ不正ノ
 事ヲナシ船主ノ不利益ヲ謀リシ等凡テ一般普通ノ推測ヲ破却スヘキ
 反對ノ證據ヲ舉サル可ラサルナリ果シテ此等反對ノ證據ナキニ於テ

ハ前ニ述タル一般普通ノ推測ハ避ク可ラサルナリ故ニ本件ノ場合ニ
 於テ甲船長ニハ綿ヲ積込ム委任權アルモノナレハ船主ナル被告ハ原
 告ノ請求ニ應シ現ニ燒失シタル四俵ノ綿ニ對シテハ損害要償ノ責ヲ
 負サル可ラス何トナレハ此場合ニ於テ被告ハ普通ノ運業者ニシテ甚
 タ重キ責任アルモノナレハナリ
 又他船ニ遷シテ沈没シタル二俵ノ綿ニ付テモ尙被告ハ責任アルモノ
 トス何トナレハ右二俵ヲ他船ニ移シタルモ必竟最初被告ノ船員ノ不
 注意ヨリ起リ而シテ之ヲ轉展スル際運搬ノ遷延シタルニヨリ遂ニ暴
 風ノ害ヲ受ケタルモノニテ果シテ此事ナカリナハ右二俵モ安全ニ到
 着シタルモノト認メサル可ラス故ニ右二俵ノ沈没シタルモ元來船員
 ノ過失ヨリ起因シタルモノナレハ其雇主タル被告ハ自己ノ不注意ニ
 對シテ賠償ノ義務ヲ免ル可カラス

終審

如此キ理由アルヲ以テ本件ノ事實ニ於テ陪審官ハ船主卽被告ト船長トハ代理ノ關係アリト見做シ此事實ヲ敗毀スルニ足ルモノナレハ被告ハ勿論其責任アリト判定セリ

是レ控訴ノ起リシ原因ニシテ被告卽船主ハ右ノ裁判ヲ甚タ不當ナリトシテ終審ノ訴ヲ提起セリ

(終審) 控訴判事曰ク本件ニ於テ最初原告カ被告ニ對シ綿ヲ積送ラシコトヲ商議シタラハ之ヲ許容シタルカ否ヤハ既往ノ事ニシテ論スルニ及ハス唯代理人ナル船長ハ被告ニ謀ラサルモ他人ノ綿ヲ運送スル所ノ委任權アリト自信シテ原告ノ綿ヲ積込タリトハ現存スル處ノ事實ナリ然リ而シテ船長ナルモノハ船舶ヲ預リ之カ管督ヲナスモノナレハ賃錢ヲ受ケ荷物ヲ積卸スルハ自ラ其委任權ノ一部ナリトシテ公衆ニ示スモノナレハ此場合ニ在リテ甲ハ船長トシテ勞働シタルカ故

ニ甲ノ自ラ綿ヲ積込ムヲ以テ權限内ナリト保シタルハ敢テ不當ナリト云可ラス又原告ニ於テモ乙丙同様ノ賃錢ヲ割出シテ委託シタルヲ以テ船長甲ハ乙丙ノ積荷ト同シキ取扱ヲナシ安全ニ運送スヘシトハ充分信シタル處ナリ特ニ在來被告カ他人ノ荷物ヲ運送スルニ誰彼ノ取据ナク汎ク公衆ノ委託ニ應シ普通ノ賃錢ヲ利スルヲ目的トナスモノナレハ被告即船主ノ心底ハ兎モ角モ其行爲ニヨリ世間一般ヨリ觀察スルトキハ被告ノ船ハ則チ普通ノ運送船ニシテ其船長ハ則チ普通運送船ノ船長ト均一ナル地位ニ立ツモノト爲サ、ルヲ得スサレハ積荷證書ニ調印スル事ニ付テモ勿論委任權アル代理人ナリトス然リ而シテ若シ從來被告ノ船ハ自分限りノ荷物ヲ運搬スルノミナリシテ獨リ本件ノ場合ニ限り船長ノ任意ヲ以テ原告ノ荷物ヲ積込ミタル者トセハ或ハ越權ノ所爲アリト云フ可キモ元來既ニ被告ノ船ハ自家ノ荷

物ヲ運送スルノ外兼テ社會一般ノ爲メニ使用シタル以上ハ假令看版
ヲ掲ケテ營業ヲ爲サ、ルニモセヨ被告自身ノ行爲ニヨリ普通ノ運業
者タルコトヲ公示シタル者ナリ況ンヤ船長カ荷物ノ運搬ヲ約シ又積荷
證書ニ調印スルコトニ付明ニ制限ヲ加フルコトナク又運送ノ業ニ付
其船賃ヲ受取ルヘキ權ナシト命令シタルコト無キニ於テヤ若シモ
被告ハ自分ノ責任ヲ負フニツキ運送ノ契約ヲナシ荷主ヲ取捨シテ其
相手ヲ擇フカ如キコトアラハ何故之ヲ世間ニ公布セサルヤ然ルニ之
レカ公布ヲナサス自カラ普通運業者ノ如キ行爲ヲナシ其責任ヲ負フ
ニ及ンテ普通運業者ニアラスト爲スハ是レ即社會公衆ヲ欺クモノト
云フ可シ且一人ノ證言ニ從ヘハ被告ノ船長ハ被告ノ不在中嘗テ他人
ノ荷物ヲ運搬シタルコトアリトノ事實アリ以上述ヘタル所ニ據リ一
般法律ノ見解ヲ下シ船主ノ責任ヲ定ムルニ左ノ如シ

第一 船主ハ其代理人カ通例委任權範圍内ニ於テナシタル行爲ニ對シ其責ニ任セサル可ラス

第二 若シ特別ニ船長ハ船主ノ代理人ニアラストノ制限ナキ以上ハ船長ハ通常ノ委任權アリト見做スヘシ

第三 凡ソ代理人ノ權限ハ地位ニヨリ定マル者ナリ故ニ其地位ニ相當スル代理權アリト認ムルヲ得ヘシ

今本件ノ事實ニ於テ船主ハ自カラノ任意ヲ以テ甲ヲ雇ヒ管督者トナシタル以上ハ假令明ニ證書ヲ以テ其權限ヲ定メサルモ甲ノ地位ヨリシテ普通一般ノ委任權アリト推測スヘシ若シ被告カ甲ノ所爲ニヨリ其責任ヲ負フヲ欲セサレハ甲ヲシテ世間一般ヲ欺クカ如キ地位ニ置カサルヲ要ス苟モ甲ヲシテ船長ノ地位ニ在ラシメテ其權限ヲ制限スルコトナキトキハ是則原告ノ過失ナリトス故ニ此場合ニ於テ甲船長

附言

ノ一般ノ委任權限ハ被告ノ船ヲ預リ居ルトノ事實ヨリ生スルモノト
ス
右ノ理由ナルニヨリ始審裁判ノ判決ハ正當ニシテ控訴ハ立タサルナ
リ

因曰 本件ハ代理人ノ通例委任權範圍内ニ於テナシタルコトハ(假
令特別ノ場合ニ其委任ナキトモ)第三者ニ對シテハ本人其責任アリ
トノ規則ヲ説明スルニ足ル好的例ナリトス

解除條件
ニ關スル

〔第八〕 解除條件ニ關スル訴件

訴件

グレー對ガルド子ル (Gray v. Gardner) (17 mass. 188);

2 Langd. Sel. C. Cont. 785)

事實

(事實)

一千八百二十一年 マサチユーセツト 上等裁判所判決
此訴訟ハ被告ヨリ原告ニ與ヘタル五千弗ノ約束手形ノ仕拂ヲ

請求スルニ在リ其手形ニハ一ノ條件ヲ附シテ曰ク甲港ニ四月一日ヨリ同年九月一日マテノ内ニ入船スル所ノ鯨脂ノ分量カ前年ノ同期限中ニ入津シタル分量ヨリモ多額ナルトキハ此手形ハ無放タルベシ此手形ノ約因ハ原告ヨリ被告ニ賣リタル鯨脂若干量ナリ右ノ手形ヲ作ルト同日ニ又一他ノ手形ヲ作レリ其手形ニハ條件ヲ附セスシテ鯨脂一「ガロン」ニ付六十錢ノ割合ニシテ勘定シテ被告カ買取リシ鯨脂ノ代價トシテ渡セリ而シテ本訴ノ手形ハ其代價殘額ノ勘定ニ當ルモノニシテ一「ガロン」ニ付八十五錢ノ割合ニテ計算ノ上五千圓ノ額ヲ生セルナリ

此訴訟事件ハ始審ノ際ニ於テ九月一日中ニ鯨脂ヲ積込ミタル一船カ甲港ニ着セシヤ否ヲ以テ議論ノ點トナシタリ而シテ之レニ關スル證據カ雙方抵觸セルヲ以テ解除條件ニ關シテ舉證ノ責任ハ何人ニアリ

ヤノ問題ヲ生セリ加之ス九月一日ニ甲港ニ入船シタリト云フ事實ハ如何ナル事柄ニ由リテ認め得ヘキヤ此點ニ付テモ亦爭點ヲ生セリ當時ノ裁判官ハ陪審官ニ告ケテ曰解除條件ニ關スル舉證ノ責任ハ被告ニアリ又鯨脂ヲ積ミシ船ハ唯甲港ノ近邊マテ到着シタル事實ノミニテハ未タ入船シタリト云フコトヲ得ス必スヤ九月一日マテニ甲港ニ於テ碇泊シタルコトヲ要ス此事實明白ナラサルトキハ本訴ノ約束手形ヲ無効ニ屬セシムルニ足ラスト

始審ノ判決

控訴ノ申立

(始審ノ判決) 茲ニ於テ始審裁判所判事ハ陪審官ノ判定ニ從ヒ宣告シテ曰ク事實ニ於テ鯨脂ヲ積ミシ船ハ未タ甲港ニ到着セスト爲ス且被告ニ於テ之レカ十分ナル證據ヲ舉ケサルカ故ニ其約束手形ハ無効ニ屬セスト即チ原告ノ勝利ニ歸シタルモノナリ

(控訴ノ申立) 此言渡ニ對シテ控訴ヲ爲セシカ其不服ノ點ニニアリ

第一 始審裁判所ニ於テ雙方ノ證據抵觸セルヲ以テ何人ニ解除條件ノ舉證ノ責任アリヤト云ヒシニ被告ニアリト定メシハ不當ニシテ當サニ原告ニアルヘキナリ何トナレハ前掲ノ條件タル控訴原告人ノ考ヲ以テ見レハ解除條件ニアラスシテ成立條件ナレハナリ即其條件ノ成立スルマテハ約束手形ノ效力ヲ生セサルモノトス其效力ハ約定セル未必ノ事柄カ起リテ始メテ生スルモノナリ故ニ控訴被告カ約束手形ヲ實行セント欲セハ宜シク先ツ指定セル期限内ニハ去年ヨリモ鯨脂ノ入津量數少カリシコトヲ證明セサル可カラス

第二 本訴ノ契約ニ從テ見レハ鯨脂ヲ積ミシ船ハ甲港ニ碇泊セサレハ入港ナキモノトスルハ不可ナリ尤モ海上保險法ニ依レハ船舶ノ到着トハ現ニ其港ニ碇泊シタルコトヲ要スレトモ本訴ノ如キハ然ルヲ要セス宜シク結約者ノ意思ニ從テ解釋セサル可カラス即チ法律ニ背

判決

カス實行ニ差支ナキ以上ハ雙方ノ意思如何ヲ見ル可キナリ當時ノ意思ヲ推察スルニ契約者ハ決シテ保險法上ノ嚴密ナル規則ヲ適用スルノ意ナカリシコト知ルヘシ何トナレハ海上保險ハ貨物ノ安全ナルコトヲ必要トスレトモ本訴ノ場合ハ之レト全ク異ニシテ若干鯨脂ノ入船セシコトノ事實ヲ報告スルノ肝要アルノミ即入船ノ量サヘ多ケレハ以テ足レリ此一事ノミヲ以テ條件ノ成否ハ決シ得ヘキナリ故ニ始審裁判所判事ノ陪審官ニ教示シタル所ハ不當ナリト

(判決) 控訴裁判所判事之ヲ判決シテ曰ク本訴契約ノ言辭ヲ見レハ既ニ結約セシ當時ニ於テ金ヲ支拂フ可キノ約束成立ス其成立セル所ノ約束ハ或ル定リシ時限内ニ某事件ノ發生スルヲ以テ無効ニ歸スト云フノ意タルハ明瞭ナリ故ニ本訴ノ約束ハ條件附ノ捺印證書ト異ナルコトナシ捺印證書ノ場合ニ於テハ若シ義務者カ捺印證書ヲ無効ニセ

ント欲スレハ其條件ヲ仕遂ケタルコトヲ證明セサル可カラズ本訴ノ
 場合ニ於テハ控訴原告人即チ義務者ハ五千圓ノ金ヲ拂フコトヲ約シ
 タリ但シ鯨脂ノ多量ニ入船スルトキハ其約束ヲ無効ニ歸スルコトヲ
 定メシノミ然レハ此場合ニ於テハ舉訟ノ責任ハ控訴原告人ニアルコ
 ト明ナリ乃チ鯨脂ノ入船ナキトキハ控訴原告人ハ正ニ五千圓ヲ拂ヒ
 渡ス可キノ義務ヲ負ヘハナリ

第二點モ亦明カニ控訴被告ノ勝利ナリ其故ハ鯨脂ハ九月一日ノ夜十
 二時マデニ甲港ニ到着セサレハ其條件ヲ満たシタルモノトスルコト
 能ハス而シテ鯨脂ヲ積ミタル船が甲港ノ沖合ニ居ル間ハ未タ以テ入
 船シタリト認ムルコト能ハス必スヤ甲港ニ碇泊スルコトヲ要ス辭ヲ
 換ヘテ云ヘハ船ノ錨ヲ下スマテハ來リツハアルトハ云フコトヲ得レ
 トモ此ヲ以テ直チニ來リタリトハ云ヒ難キナリ何トナレハ甲港ノ入

モノナリ而シテ其如何ナルコトノ不敬ト爲ルヤ否ヤハ裁判官カ其時ノ認定ニ由ルモノニシテ豫メ此ニ定メ難シ畢竟不敬ト云フ文字ヲ用ヘシ立法者ノ意思ハ誹議、誣罔、罵詈スル如キ又ハ形容ヲ以テ謗リ或ハ演説出版書類等ニ由リテ不敬ノ所爲アルモノ皆此條ニ含蓄セシメタルモノト解釋スレハ可ナラン今此兩條ニ當ル罪ノ刑ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 危害ヲ加ヘタル罪

刑 死刑

(二) 危害ヲ加ヘントスル罪

(三) 不敬ノ罪(刑)

自三月至五年 重禁錮
自二十圓至二百圓 罰金

第二節 皇陵ニ對スル罪

皇陵ハ天皇ノ御墳墓ニシテ三后皇太子ノ御墳墓モ自ラ之ニ包括セラ

皇陵ニ對スル罪

ル、ナリ則チ第百十七條ノ二項ニ其刑ヲ掲ケ皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シト規定セリ例ヘハ之ヲ發掘汚穢毀損スルカ如キ皆ナ皇陵ニ對シ不敬ヲ加ヘタルモノニシテ本項ノ制裁ヲ受クヘキモノナリトス

皇族ニ對スル罪

第三節 皇族對スル罪

第百十八條ニ皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處スト凡皇族ハ天皇ノ御親戚ニシテ此ニ説明ヲ要セス只危害ヲ加ヘタルモノト加ヘントシタル者トニ由リト其刑ヲ異ニセリ次ニ不敬ノ所爲アルモノハ猶其刑ヲ輕クセリ即チ左ノ如シ

- (一) 危害ヲ加ヘタル者 (刑) 死刑
- (二) 危害ヲ加ヘントシタル者 (刑) 無期徒刑

(三) 不敬ノ所爲アル者 (刑)

自二月 重禁錮
自四年
自十圓 罰金
至百圓

元來監視ハ輕罪ノ刑ニハ特別ノ場合ニ非サレハ附加セス然レトモ本章ニ掲クル罪ハ危害ノ及フ處實ニ容易ナラサルヲ以テ輕罪ノ刑ニ處スル者ト雖モ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ附シ再犯ヲ豫防セリ(第百二十條)

第拾壹回

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

國事ニ關スル罪ハ其範圍實ニ漠乎タル者ナリ前回ニ於テ之ヲ身體ニ關スルモノト財産ニ關スルモノトニ區別スルコトヲ述ヘシカ唯其目的上ヨリ區別シタル名稱ニシテ其歸着スルトコロヲ論究スルトキハ

内亂ニ關スル罪

要スルニ一國一体ニ關係スル者ニシテ一身一己ニ關係スルコト少ナ
 キニ居ルナリ則チ其一ナル内亂ニ關スル罪ハ其關係スルトコロ政府
 ト云フ一ノ無形人ナリ換言スレハ我刑法ニ云フ内亂トハ則チ日本國
 ノ國体ヲ傷ツクルノ罪ナリ英語ニテ之ヲ「ツリーズン」ト呼フ英國ノ刑
 法ニテハ此「ツリーズン」ノ中ニ於テ英國皇帝即チ女皇陛下ニ關スル罪
 ナモ論シタリ然リ而シテ我刑法ニテハ殊更皇室ニ關スル罪ヲ分チテ
 之レカ區別ヲ立タルモノハ如何ナル理由ナリヤヲ知ラサレトモ蓋シ
 我帝國ノ國体ニ於テ皇室ハ則是國ノ大基礎ニシテ之ニ對シテ危害ヲ
 加フルトキハ其害ヲ被ムル者ハ畏レ多クモ神聖ナル天皇陛下即チ萬
 上ノ至尊ナルヲ以テノ故ニ之ヲ區別シタルニアラサラン歟

是ヨリハ内亂ニ關スル罪ヲ追條講述スヘシ

第二百一十條

政府ヲ顛覆シ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スル目的

ヲ以テ内亂ヲ起シタルモノ云云

此條ハ内亂ニ關スル罪ノ第一ニシテ今之ヲ圖解スルトキハ如左

國ノ體面ヲ傷クル罪

其一 政府ヲ顛覆スル所爲
其二 邦土ヲ僭竊スル所爲
其三 其他朝憲ヲ紊亂スル所爲

内亂

政府ヲ顛覆スルトハ例ヘハ帝政國ヲ王國トシ或ハ共和國トナス如キ類ヲ云フ

邦土ヲ僭竊スルトハ例ヘハ神武天皇以來ノ皇統ヲ絶チ自ラ皇位ヲ奪ハントスル平將門ノ如キ者ヲ云フ

其他朝憲ヲ紊亂スルトハ例ヘハ日本國ノ一部分ナル四國或ハ九州ヲ分割シテ獨立セシメ其處ニ王位ヲ立ントスルヲ云爰ニ其他トアルモノハ前ノ政府ヲ顛覆スルモ邦土ヲ僭竊スルモ同シク國體ヲ傷クル所爲ニシテ即チ朝憲ヲ紊亂スルモノナレハナリ
凡ソ日本國ハ萬世一系ノ皇統ヲ以テ君臨セラル、帝國ニシテ本島及

四國九州北海道ヲ以テ成立スル者ナレハ是則チ此國ノ基礎ニシテ國ノ體面ナリトス然ラハ帝國ヲ共和國トシ又ハ帝位ヲ篡奪シ又ハ其國ノ一部分ヲ分割スルハ皆是レ國ノ成立スル所以ノ基礎ヲ崩壞スル所爲ニシテ國ノ體面ヲ傷クル者ナリ故ニ右等ノ目的アリテ又内亂ヲ起スノ所爲ニ發シタルトキハ其罪實ニ容易ナラサルヲ以テ直ニ本條ノ刑ヲ適用スヘシ然レトモ彼ノ縣令ヲ殺サンカ爲メニ兇徒ヲ嘯集シテ暴動ヲナス一揆トハ大ヒニ其性質ヲ異ニセリ

罪ノ性質タルヤ以上説明シタル如クナルニ因リ一人一己ニテ犯スヘキモノニ非ス必ス大勢集合シテ之ヲ企ツルモノナルハ論ヲ待タス故ニ其犯罪ノ度ニ應シテ罪ノ輕重ヲ論シ其制裁ヲ區別セラルル如左

一 首魁及教唆者ハ死刑ニ處ス此項ハ首魁及教唆者ノ罪ヲ定メタルナリ首魁トハ首謀者ヲ指ス西郷隆盛ノ如キ者ヲ云ヒ教唆者トハ假リ

ニ西郷ノ亂ヲ懲憑シタル者アラハ其等ヲ指シテ教唆者ト云フ
二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處
シ其情輕キモノハ有期流刑ニ處ス〔此項ハ第二ノ巨魁トモ云フヘキモ
ノ、罪ヲ定メタルナリ内亂ヲナスニハ必ス大勢集合スルコトハ前述
ノ如クナレハ其大勢ヲ指揮スル者ナカラサル可ラス例ヘハ篠原桐野
ノ如キ者はナリ

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲナシタル者ハ重禁獄ニ處シ
其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス〔此項ハ内亂ヲ幫助スル者ノ罪ヲ定メタル
ナリ則チ内亂ヲナスノ情ヲ知りテ兵器金穀ヲ贈リ其他諸般ノ職務ヲ
ナシタル者ハ假令戰爭ニ出テスト雖モ其戰爭ヲシテ容易ナラシメタ
ル者ナリ

四 教唆ニ乘シテ附加隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ

第二百二十
二條

二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス此項ハ首魁及教唆者ノ嘯集ニ應シテ出テ、指揮ヲ受ケタル者ノ罪ヲ定メタルナリ

右四項ハ學問上ヨリ區別シタル者ナレハ別ニ講義ヲ要セサルナリ

第二百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備

ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

前條ノ圖解ニ示セル國ノ体面ヲ傷クル罪ノ第四ニ入レテ然ル可キナリ此條突然内亂云云トアリテ其内亂トハ如何ナルコトヲ指スカヲ記載セサルハ既ニ百二十一條ニ於テ内亂ノ義解ハ定マリタルヲ以テ、故ナリサレハニヤ始メ我刑法ノ草案ニハ此條ノ冒頭ニ前三條ニ記載セルノ數文字アリシカ改メテ之ヲ削除シタルナリ

要スルニ此條ニ於テハ内亂ヲ起サ、ルモ其目的ヲ以テ兵器糧食其他軍用ノ物品ヲ掠奪シタル者ハ内亂ヲ起スノ罪ニ均シキ制裁ヲ與フヘ

第三百二十三條

シト云フニアリ

第三百二十三條 政府ヲ變亂スル目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉ルニ至ラスト雖モ内亂ト同シク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

此條ハ第二百二十條ト異ナリテ顛覆ノ文字ニ代ユルニ變亂ノ文字ヲ用ヒタリ則チ政府ヲ變亂スルトハ例ヘハ國會アレハ其國會ヲ脅迫シテ或事ヲ爲サシメ或ハ司法ノ長官行政ノ長官ニ迫リ又ハ之ヲ殺シテ以テ司法上行政上ノ變革ヲ企ルヲ云フ換言スレハ國體ニアラサル司法或ハ行政ノ一機關ノ變動ヲ起サシムルカ或ハ其運轉ヲ妨グルモノヲ云フ其制裁ハ内亂ト同シ

第二百二十四條

第二百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス前三條ノ罪ハ未遂ノ時ニ於テ本刑ヲ科スル理由ハ何ソヤ一ハ國ノ體

面ハ重スヘキ者ナルニ因リ之ヲ傷ケンコトヲ企ツル者ハ其企其レ自
 ラ己ニ容易ナラサル大罪ニシテ疾ク之ヲ止メサル可ラサルトスルト
 一ハ其目的アリテ之カ行爲ニ見ハル時ハ既ニ犯罪ト云フトコロヲ以
 テ同様ノ制裁ヲ加フルニ在リ

今此ノ未遂^{ろコンバース}ノ度ハ如何ナル處ニ達スルヤヲ説明センニ普通ノ未遂犯
 ナレハ則政府ヲ轉覆スル目的アリテ内亂ヲ起スト雖モ其事ヲ遂ケサ
 ルトキハ未遂ニシテ彼強盜ヲナサントシテ他人ノ家ニ侵入スルモ未
 タ其財寶ヲ強奪セサレハ既遂ニアラサルナリ然レトモ内亂ニ關スル
 罪ハ既ニ其目的アリテ之レカ準備ヲナストキハ假令其目的ハ達セサ
 ルモ既遂トナルニ因リ内亂ノ目的ヲ以テ兵器糧食ヲ倉庫ニ積入ルト
 キハ勿論既遂ナリトスヘシ

第二百二十五條

兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備

ヲ爲シタル者ハ第二百一十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス
此條殊更ニ説明スルノ要ナク則チ内亂ニ關スル罪ニ於テハ普通ノ犯
罪ト異ナリ己ニ未遂ノ場合ニ於テ本刑ヲ科セラルル者ナレハ其未遂
ノ豫備ヲナスモノハ一等ヲ減刑セラル、ナリ
内亂ノ隱謀ヲナシ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス
隱謀ナル者ハ何ヲ意味スルヤ今人アリテ内亂ヲナサントスル隱謀ア
ルモ之ヲ外形ノ所爲ニ見ハサ、レハ何ヲ以テ隱謀アリト爲ヌヲ得ン
サレハ胸中隱謀ヲ蓄ヘテ之ヲ外形ノ所爲ニ見ハル、トキニ於テ則此
項ニ該當スヘシ英國ニテ或人其友人ニ書ヲ贈リテ云ヘル様余ハ皇帝
ヲ弑サント欲シ其ノ爲メ今般獨逸ニ旅行セントスト此場合ニ於テ唯
皇帝ヲ弑サント欲スト言フノミナレハ隱謀ヲナシタルト云フヲ得サ
レトモ其ノ爲メ獨逸ニ旅行ストアルニ因リ隱謀アリトセラレタリ此

ニ其旅行ヲ以テ一ノ所爲ト見做ス可ケレハナリ
第二百二十六條 内亂ノ豫備又ハ隱謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

此條ハ特別宥恕罪ナリ凡ソ内亂ニ關スル罪タルヤ容易ナラサル犯罪ニシテ一朝之ヲ犯スモノアルトキハ政府ニ於テ大ナル困難ヲ惹起スヘシ故ニ既ニ行フトキハ最モ嚴酷ニ之ヲ罰ス可キヤ言ヲ待サルナリ然リ而シテ爰ニ又特別ナル宥恕罪ヲ置クモノハ是レ悔悟スルモノヲ獎勵スル所以ニシテ此ノ如キ犯罪ハ可成的之ヲ中止センコトヲ望ムカ故ナリ豫備隱謀ヲ罰シテ中止ノ道ヲ開カサレハ其刑苛酷ニ亘リテ却テ國事犯ヲ増加スルニ至ルモノナリ是レ此條ノ設ケアル所以ナリトス

タルトキ乙ハ安全ノ場所ニ退キ然ル後乙者甲者ヲ殺害シタリトセハ是固ヨリ謀殺タルヲ免レス其故ハ最初ヨリ充分ノ惡意存在スルヲ以テナリ又不意ノ爭鬪ヨリシテ甲者先ツ乙者ヲ攻撃シ乙者之ヲ打返サントスルヲ以テ甲者其攻撃ヲ避クル際牆壁ニ突戻サレテ乙者ヲ殺害スル如キ場合ヲ自衛防禦ト爲ス論者アリト雖モ斯ノ如キハ固ト自己ノ過失ヨリシテ起リタルモノナレハ當然ノ自衛防禦ト爲スヲ得サルヘシ又主從親子及ヒ夫妻ノ間ニハ自衛防禦ノ原則ヲ適用シ得ルモノニシテ例ヘハ夫其妻ノ爲メ從者其主ノ爲メ子其親ノ爲メ或ハ親タル者其子ノ爲メ主人其從者ノ爲メ妻其夫ノ爲メニ攻撃者ヲ殺害スルカ如キハ則チ自衛防禦ヲ以テ論ス蓋シ親戚相互ニ扶助スルノ行爲ハ被攻撃者ノ行爲ト同一視スルヲ以テナリ

以前ニ在テハ宥恕スヘキ殺害ハ二種共ニ法律上ヨリシテ多少非難ス

ヘキ點ヲ含蓄スルモノトシ其非難スヘキ點ノ存スルヲ以テ正當殺害ト宥恕スヘキ殺害トヲ區別スルノ理由トセリ誤殺ノ場合ニ於テハ法律ハ常ニ懈怠アルヲ推測シ他人ヲ殺害スルカ如キ不幸ニ陥リタル人ハ必ラス充分ノ注意ヲ用ヒタル者トハ云フ可カラサルヲ以テ全ク過失ナキ者ト爲スヲ得ス又第二種ノ宥恕殺害ノ如キハ不可知ノ非行或ハ排發ヨリ來シタル爭鬪又ハ攻撃ノ結果ニシテ其曲直判然ナラス双方共ニ多少ノ過失アルヲ免レス故ニ法律ハ生殘リタル人ヲ以テ必ラスシモ無罪トハ爲サザルナリ

第三章 重罪殺害[℥]フエロニチー[℥]ス、ホミサイド

重罪殺害トハ正當若クハ宥恕スヘキ理由ナクシテ人類ヲ殺害スルノ行爲ニシテ前章ニ述ヘタル殺害トハ全ク其性質ヲ異ニシ獨リ他人ヲ殺害スルノミナラス自殺スルモ亦同シ

第一節 自殺セルフ・マードー

抑モ人生ハ上帝ノ賜ニシテ苟モ上帝ノ允許ヲ得ルニ非ラサレハ人ノ生命ヲ剝奪スル能ハサルヲ以テ自殺ノ如キハ二重ノ犯罪タルヲ免レス其一ハ上帝ノ特權ヲ侵シテ其咫尺ニ現參スルノ罪ニシテ他ノ一ハ人民保護ノ職ニ在ル主權者ニ對スル罪即チ是ナリ英國ノ法律カ自殺ヲ重罪ノ部ニ入レタルモ蓋シ右ノ理由ニ基クモノナラン又自殺ノ罪モ他ノ重罪ト均シク事實前ノ從犯アルモノニシテ例ハハ甲者アリ乙者ヲ教唆シテ自殺ヲ遂ケシムル如キハ甲者モ亦其罪ヲ免ル、能ハス要スルニ熟慮シテ以テ自身ノ生命ヲ剝奪スル者ハ自殺ノ罪ヲ免ル、能ハスト雖モ故意ニ他人ヲ殺害セントシ不圖自身ヲ殺害スルノ所爲例ハハ他人ヲ銃殺セント爲ルトキ其銃破烈シテ自身ヲ殺害スルカ如キモ亦自殺ノ罪ヲ免ル、ヲ得ス然レトモ甲アリ乙者ニ對シ己ヲ殺害

殺人及ヒ
謀殺

Manslaughter
and murder

Voluntarily
Involuntarily

セシコトヲ依頼シタルヲ以テ乙者之ヲ殺害シタル如キ場合ニ於テ乙者ハ固ヨリ謀殺ノ罪ヲ免レスト雖モ甲者ノ所爲ハ法律上自殺トハナラサルナリ

第二節 殺人及ヒ謀殺

第二種ノ重罪殺害ハ則チ他人ヲ殺害スルノ罪ナリ然レトモ均シク他人ヲ殺害スルノ罪ニシテ數多ノ程度アルヲ以テ今之ヲ大別シテ殺人罪及ヒ謀殺罪ノ二種トス而シテ右二種相異ナル點ハ前章既ニ述ヘタル處ノモノニ就テ之ヲ知ルヲ得ヘシト雖モ其最モ重ナル理由ヲ擧レハ殺人罪ハ一時情慾ノ激動ヨリ生スル所爲ニシテ謀殺ハ之ニ反シテ故意惡念ヨリ起ルモノナリ
故ニ殺人罪トハ故意惡念ナクシテ不法ニ他人ヲ殺害スルノ所爲ヲ云フモノニシテ其中ニ又有有意無意ノ別アリテ一時ノ激動ヨリ來スチ有

有意殺人

意殺人ト云ヒ無意ニ不法ノ行爲ヲナシ爲メニ他人ヲ殺害スルヲ無意殺人ト稱ス故ニ殺人罪ニハ事實前ノ從犯ナシ如何トナレハ豫メ計リタル所爲ニ非ラサレハナリ

有意殺人例ハ不意ノ爭鬪ニ依リ一方ノ對手他ノ對手ヲ殺害スル如キハ則チ有意殺人ニシテ甲ノ場所ニ於テ爭鬪シ其中途ヨリ乙ノ場所ニ轉シタル後殺害スルモ亦同シ如何トナレハ最初ヨリ繼續シタル情欲激動ノ結果ナレハナリ又他人ノ爲メニ鼻ヲ削ラル、或ハ唾セラ、如キ侮辱ヲ受ケタルヨリ侮辱者ヲ殺害シタル場合ノ如キハ固ヨリ自衛防禦ヲ以テ論ス可カラスト雖モ左リトテ豫メ計リタル所爲ニ非ラサル以上ハ謀殺トモ云フ可カラス則チ有爲殺人ナリ又均シク他ヨリ挑發ヲ受ケタル場合ト雖モ激怒ヲ解クニ充分ナル時間ヲ經過シタル後挑發者ヲ殺害スル如キハ固ヨリ一時ノ怒ニ乘シテ爲シタル所

殺人罪ト
宥恕自衛
殺害トノ
區別

無意殺人
ト宥恕誤
殺トノ區
別

行ト云フ可カラサルヲ以テ謀殺タルヲ免レス他人カ己ノ妻ト姦通ス
ルヲ發見シ其場所ニ於テ夫之ヲ殺害シ其場所タル若シ夫ノ住家ナレ
ハ「ソロン」及ヒ羅馬法等ニテハ夫ノ罪ヲ問ハサリシト雖モ英國ノ法律
ハ之ト大ニ異ナリ強姦ノ場合ニ於ケル如ク之ヲ正當殺害トナサスシ
テ殺人罪ヲ以テ罰スルモノトセリ以上述ル所ノ如クナルカ故ニ殺人
罪ト宥恕スヘキ自衛殺害ト異ナル處ハ一方ニ於テハ自衛ノ爲メ攻撃
者ヲ殺害スルノ必要アリト雖モ殺人罪ノ場合ニ於テハ毫モ斯ノ如キ
必要ナク復讐ニ出ル不慮ノ行爲ナリト云フニ過キス
又無意殺人罪ノ宥恕スヘキ誤殺ト異ナル處ヲ舉レハ宥恕スヘキ誤殺
ハ常ニ正當ナル所爲ノ結果ナリト雖モ無意殺人ハ之ニ反シテ不正當
ナル行爲ノ結果ナリトス例ヘハ甲乙兩者互ニ刀劍ヲ弄シ甲者乙者ヲ
殺害スル如キハ其所爲固ト不正ナルヲ以テ殺人犯タルヲ免レス又所

爲其物ハ正當ナルモ其之ヲ行フ方法不正ニシテ且ツ相當ノ注意ヲ用
ヒサル場合卽チ市街ニ向テ木石等ヲ投シ爲メニ人ヲ殺害スル如キハ
其狀實ノ如何ニ依テ誤殺殺人或ハ謀殺トナルモノニシテ若シ人ノ通
行稀ナル田舎間ニ於テ相當ノ注意ヲ與ヘタル後木石ヲ投シ爲メニ人
ヲ殺害スルハ單ニ誤殺タルニ過キスト雖モ龍敦府其他人口繁殖ノ場
所ニ於テハ良シヤ相當ノ注意ヲ與ヘタリトスルモ殺人罪ヲ免ル、能
ハス而シテ若シ人ノ通行スルヲ知リナカラ何等ノ注意ヲ與ヘスシテ
木石等ヲ投シ爲メニ其通行者ヲ殺害シタル如キハ謀殺犯ナリトス如
何トナレハ此場合ニ於テハ人類ニ對スル惡意アルヲ以テナリ要スル
ニ不正ナル行爲ノ結果トシテ無意ノ殺害ヲ來ストキハ其行爲ノ性質
如何ニ依テ或ハ殺人犯タリ或ハ謀殺犯タルモノニシテ若シ惡意ヨリ
出テタル行爲ノ結果ナルトキハ固ヨリ謀殺ナリト雖モ單ニ民事上侵

刑殺人罪ノ

謀殺

害ノ意ニ外ナラサルトキハ殺人犯ヲ以テ論スルモノトス
 英國ノ法律ニテハ殺人犯ヲ重罪トシデオーヂ第四世九年ノ布告ヲ以
 テ殺人罪ヲ犯シタル者ハ七年以上終身以下ノ徒刑或ハ四年以下ノ禁
 獄又ハ罰金ニ處スルコトヲ定メタリ
 謀殺即チ故意ヲ以テ他人ヲ殺害スルノ罪ハ一般ニ死刑ニ處スルモノ
 トス蓋シ謀殺ノ名稱ハ往古ニ在テハ秘密ニ他人ヲ殺害シタル所爲ニ
 ノミ適用シタルモノニシテ瑞典及ヒ丁抹等ニ於テハ殺害サレタル人
 アル場合ニハ其近傍ノ者ヨリシテ犯罪者ヲ發見シ之ヲ法廷ニ差出サ
 ヲルトキハ其近傍ノ者ヲ以テ該犯罪人トセリブラクトンノ說ニ依レ
 ハ英國ニ於テモカニユート王ノ時代ニハダンス人カ英人ノ爲メ暗殺
 セラル、チ防ク爲メ右ト同一ノ法律ヲ設ケ其後征討者ウキルリヤム
 ノ時代ニモノルマン人ヲ保護スル爲メ矢張り同一ノ法律ヲ設ケタリ

訴訟法

ばりすどる
法學士

增島六一郎講義

校友石山彌平編輯

編者曰訴訟法ノ科目ハ本校ノ規則ニ依レハ第一年及二年級ニ入ル
ヘキモノナレトモ目下裁判事務ノ改良ハ官民間ノ一大急務ニ迫リ
タレハ是ヲ研究スル固ヨリ一日モ猶豫スヘカラサルヲ以テ校内生
ノ便宜ヲ計リ本期講義録ニ掲載スルコトニセリ讀者請諒セラレヨ

第一回

凡ソ法律ヲ學ブニ二ノ目的アリ一ハ法律ノ如何ナルモノタルヤヲ學
テ而シテ學識ヲ得以テ立法官若クハ行政官トナルニアリ一ハ法律ヲ
學テ而シテ實地ニ之ヲ運用セント欲スルニアリ第一ノ目的ハ學識ヲ
得ルニハ相違ナキモ凡ソ學問ハ只理論ヲ學ブノミニテハ足ラス古昔
ノ漢學者ハ四書五經ヲ讀ンテ傲然トシテ政治ノ常態君子賢士ノ形迹

若クハ天下ヲ治ムルノ策等ヲ喋々辯論スルヲ常トス而シテ今其吐露
スル所ノ事柄ヲ實地ニ行ヒ得ルヤト云フニ言行相反シテ一モ實地ニ
活動セシムルコト能ハス只机上ノ空談ノミ今法律學ヲ座上ニ學テ政
治家トナリ法律ヲ修メテ立法官若クハ行政官トナル者アルモ未タ以
テ熟練ノ政治家ヲ生スル能ハス又法律ノ精神ヲ知ル能ハス立法官若
クハ行政官トナリテ實地ニ其事務ヲ行フトキニ其曾テ學ヒタル學問
カ幾分ノ利益ヲ與フルコトアルモ書籍ヲ讀ンタルノミノコトナレハ
未タ實地法律ノ精神ヲ學フコト能ハス故ニ法律ヲ學フニハ其目的ノ
第一第二タルヲ問ハス法律ヲ實地ニ應用シタル人ニ非サレハ眞ニ法
律學ノ利益ヲ得ルコト能ハス立法官學識ヲ有シ法律ヲ制定スルニ其
文面上如何ニモ美ナルモ其實用ノ點ニ至リテハ不便アルハシ若シ實
地ニ事務ヲ取り扱ヒタル人カ立法官トナリテ法律ヲ制定スルニ當テ

ハ其法律ハ着々實地ニ符合シテ其應用圓滑ナリ又行政官モ其政府ヨリ發シタル法律ニ基キテ事務ヲ取扱フモノナリ其實地ニ熟練シタルモノニ非サレハ其事務澁滯シテ迅速ニ處斷スルコト能ハサル可シ故ニ法律ノ學識アルモノ立法官若クハ行政官トナリタルトキハ未タ實地ノ經驗ナキヲ以テ實地ニ應用スルニハ必スヤ實地法律家ノ指揮ニ從テ事務ヲ處斷セサル可カラス余聞クニ英米國ノ官府ニ於テハ各々實地ニ經驗アル代言人ヲ雇入レテ法律施行ノ補助トナシ英米ノ立法院若クハ行政局ニ於テハ實際法律家ノ勢力多シト云フ前述ノ如キヲ以テ法律ヲ學フニハ只理論ノミヲ學フモ有益ニ非ス兼テ實地ヲモ研究セサル可カラス有名ナル小説家カーノ小説ヲ書セシニ其書中ニ一ノ志ハ高尚ナルモ至テ貧窮ナルノ人アリ其人曰ク智識ハ實力ナリ故ニ學問サヘスレハ智識モ發達シテ自然ノ高等ノ人物トモナルコトヲ

云フテ終ニ失敗シタルノ奇談アリ余ハ考フルニハ智識ハ實力ヲ得ル
ト云フヨリモ寧ロ勇氣ヲ與フル者ナリト云フヲ眞ニ近シトス何トナ
レハ智識アレハ事物ノ理判然シテ一モ疑惑ヲ生スルモノナク隨テ恐
怖ノ念ヲ起スコトモナケレハナリ今法律ヲ學フニハ只法理ヲ研究ス
ルノミニテハ未タ以テ足レリトセス必スヤ之ト同時ニ勇氣テウナル
モノヲ養成セサル可カラス一ノ法律博士ニ問テ或者ノ説ハ法理ニ合
フヤ否ヤト云ヘハ博士ハ自己ノ學識ニ照シテ其答ヲナス可シト雖モ
今一ノ爭論事件ヲ提出シテ此ノ事件ハ如何ナル方法手段ヲ以テセハ
其訴旨ヲ達スルヲ得ルヤト問ヘハ博士ハ之カ答辯ニ苦ムコト往々ア
ル可シ之ヲ要スルニ學問ノ要ハ事務ヲ取行フニ付キ一ノ見識ヲ與フ
ルモノナリ故ニ學問アルノ判事ト學問ナキノ判事トハ其事務ヲ取扱
フノ點ニ於テ大差アルモノニシテ學問アル判事ハ一言ヲ吐クモ躊躇

セス一個ノ見識アリテ事務ニ當テ狼狽セス因テ事務モ舉リテ延滯ス
ル等ノ患毫モナシ無學ノ判事ハ之ニ反ス然リト雖モ如何ニ學問アル
モ實地ニ熟練スルニ非サレハ其學問ノ技倆ヲ充分呈出スルコト能ハ
ス而シテ法律ヲ學ヒタルヨリシテ得ル間接ノ利益則チ勇氣ヲ得テ驚
カサルノ精神ヲ養成セント欲セハ必スヤ第二ノ目的ヲ以テ法律ヲ學
ハサル可カラサルナリ又法律ヲ學フニハ實地ニ付キ研究スルニ非サ
レハ其用明カナラス其實地ニヨリテ得タル所ノ經驗ハ大ニ法理ヲ發
見スルモノナリ而シテ學問セサル人ノ勇氣ハ之レ匹夫ノ勇ナレハ貴
重スルニ足ラス因テ學問ト實地トハ兼修セサル可カラサルモノナリ
今日ヨリ余ノ諸君ニ向テ開講セントスル訴訟法ハ則チ法律ヲ學フニ
付キテ實地ノ助ナスモノナリ

法律ニ二種アリ第一ハ一般ノ法律ノ何モノタルコトヲ示スモノ第二

ハ其示サレタル法律ヲ運轉應用スルノ道如何及其規則如何ヲ示スモ
ノナリ之レ刑事ト治罪法民法ト訴訟法ノ區別アル所以ナリ
凡ソ法律ヲ適用スルニ當リ法律家ハ何ニヨリテ之ヲ行フヤト云フニ
已ニ學得シタル智識經驗ニヨリテ應用スルモノナリ而シテ其目的ハ
事實ヲ取リテ其眞偽ヲ糾シ其事實一定シタル上ニテ之ニ適スルニ法
律ヲ以テスルニ過キス而シテ其之ヲナスニ當リテ履行スヘキ規則ヲ
示スモノヲ訴訟法ト云フ
前述ノ如クナルヲ以テ法律ト實地トノ現象ヲ以テ自由ニ活動スルハ
之レ法律家ノ職務ナリ然リト雖モ其法律家ノ職務ニモ二種アリ第一
ハ法理ニヨリテ人ノ權利義務ノ如何ヲ作ルコトヲ專務トスルモノニ
シテ第二ハ已ニ定マリタル人ノ權利義務ヲ論シテ甲乙ノ權利義務ハ
果シテ如何ヲ取調ルモノナリ而シテ第一種ノモノヲ英語ニテ「乙んべ

いやんさる」ト云フ此ノ「こんべいやんさる」ハ法理若クハ法律ニヨリテ
權利義務ヲ創設スルモノナク云フ第二種ノモノハ英語ニテ「ふりだる」ト
云フ之ハ已ニ創設セラレタル權利義務果シテ如何ヲ取調フルモノナ
ク云フ因テ「こんべいやんさる」ハ常ニ其事務所ニアリテ人ノ相談ヲ受ケ
契約書財産讓渡書其他權利義務ヲ他人ニ移轉スル等ノ事務ヲ取扱ヒ
單ニ事務所内ニ於テ事務ヲ取扱フモノナク云フ而シテ其仕事ヲ名ケテ
「ちゑんばる、うをるく」ト云フ「ふりだる」ハ之ニ反シテ常ニ裁判所ノ法庭
内ニ於テ辯論スルモノナク云フ固ヨリ判事ト判事トハ其區別アルモ
其取扱フ事務上ヨリ論スレハ判事モ判事モ此ノ「ふりだる」ノ中ニ入
ル、モ可ナリ彼ノ「こんべいやんさる」ノ事ハ今日日本人ノ思想外ノモノ
ナレハ日本人ニ於テハ奇怪ノ感アルモ計レスト雖モ此ノ「こんべいや
んさる」ノ職タル實ニ必要ノモノニシテ公益ヲ保護スルモノナリ則チ

「こんべいやんさる」ノ作りタル貸借證書若クハ讓渡其他百般ノ契約ニシテ完全ノモノナラシメハ訴訟起ルコトナシ好シヤ訴訟提起セラル、コトアリトスルモ其訴訟ノ争ヤ只法律ノ規定若クハ解釋ニ止マルモノニシテ敢テ其訴訟ノ事實如何ヲ爭論スルノ必要ナシ因テ此ノ「こんべいやんさる」トナルモノハ法理ニ通シ實驗ニ長シタルモノニ非サレハ此ノ如キ契約若クハ證書ハ爭論ヲ來スノ憂アレハ之ヲ防禦スルニハ斯ク々々ノ手段ヲ用ヒテ其爭論ヲ防禦セサル可カラスナト之ヲ法律ニ監シ實見ニ徴シテ證書等ヲ作ラサル可カラス之ヲ要スルニ「こんべいやんさる」ノ職タル政府ノ發布シタル法律ニヨリ作爲シタル人ノ權利義務ヲ明確ニスルニ過キサルナリ然リト雖モ弘法大師モ筆ノ誤マリアレハ斯ク最初ニ嚴確ニ人ノ權利義務ヲ一定スルモ或ル事情ヨリシテ原被兩造間ニ一ノ爭論ヲ惹起スルコトモアリ其爭論起リタ

ルトキ茲ニ初メテ「ふりだる」ノ事務ヲ生スルモノナリ
前述ノ如ク法律家ノ職務ハ法律ト實地ノニニ關スルコトヲ説キタリ
而シテ其法律ヤ多ク其事實ヤ千種ナレハ如何ナル事實ニハ如何ナル
法律ヲ適用スルヤヲ知ラント欲セハ法理ヲ學ヒ得テ豫テ養成シ得タ
ル所ノ勇氣ヲ以テ實地ニ取扱フモノニ非サレハ能ハス其法律ハ誰レ
カ造ルヤト云フニ法律ヲ造ルモノハ政府ナリ事實ヲ造リ出スモノハ
人民ナリ元來法律ヲ發スルノ目的ハ決シテ人間ノ千變萬化ノ事實悉
皆ヲ支配セント欲スルノ意ニ非ス只政府カ治者ノ位ニアリテ政府ト
人民若クハ人民ト人民間トノ爭論不便ナカラシメンカ爲メ豫メ備ヘ
タルモノニ過キス則チ古昔ヨリ學者若クハ政治家カ實驗セシ所ノ形
迹ニ付キテ其大略ヲ定メタルモノナリ要スルニ法律ハ人間ノ行爲標
準ノ概畧ヲ備フルモノニ過キス今一ノ法律ヲ以テ人間ノ千變萬化ノ

行爲ヲ規定セント欲スルモ到底爲シ能ハサルコトナリ故ニ法律ハ只
其概畧ヲ定メ置キテ其外ノ事ハ一切人民ノ自由ニ權利義務ヲ作爲ス
ルニ任セサル可カラス例ヘハ契約法ノ如キモ只契約ヲ結フニハ斯ク
々々ノ方式若クハ手段ニヨラサレハ効力ヲ與ヘスト云ヒ其大畧ヲ定
メテ其契約ハ如何ナル種類ノモノナリト雖モ各人自由ニ結約スルコ
トヲ得可キナリ前述ノ如ク法律ハ只豫定スルモノニ過キサレハ之ヲ
適用スルノ事實生スルニ非サレハ法律ハ其効用ヲ顯スコト能ハサル
ナリ故ニ「こんべいやんさる」カ最初約束ヲ結フトキニ嚴正ナル契約書
若クハ讓渡書等ヲ調製スルトキハ決シテ事實ノ爭ヲ生スルコトナク
從テ法律ヲ適用スルニ餘地ナカル可キナリ
英國ノ法律ト他國ノ法律トノ差異ハ英國ノ法律ハ判決例ヨリ成ルモ
ノニシテ實地ヨリ生スルモノナリ故ニ其判事モ代言人モ重モニ法律

チ實地ニ學得シタルモノナレハ其法律ヤ一モ事實ニ適合セサルカ如キ無用ノ法ナシト云フモ可ナリ之ニ反シテ大陸ノ法律ハ政府カ先ツ人間一般ノ行爲ノ傾向ヲ見テ其大畧ヲ規定スルモノナレハ其法律ハ事實ニ適合セサルモノ鮮少ナラサルニハアラサルカ法律ハ彼ノ原則ノ如ク人皆ナ知ルモノトスレハ一ノ訴訟ノ起ルニ當リテ一ニ之ヲ證明スルヲ要セス而シテ人民ノ作りタル事實ハ出沒極マリナキモノナレハ其事實ヲ前以テ豫定スル能ハサルヲ以テ必ス一ノ事實惹起スルトキハ其事實ハ何ソヤ又其事實ハ眞ナルヤ僞ナルヤヲ證明セサル可カラズ其法律ト事實トヲ取リテ爭論ノ結局ヲ定ムルモノハ判事ト代言人ノ職ナリ而シテ已ニ一定シタル法規ト其起リタル事實トヲ比較セハ此ノ如クナルト斷決スルハ則チ裁判ナリ

彼ノ論理學ナルモノハ事物ノ眞理ヲ辯論スルノ規則ニシテ大命題ナ

ル一般ノ原則ヲ以テ小命題ナル各自ノ事實ニ適合シテ其當否ヲ斷案
スルモノニシテ其大命題若クハ小命題ノ一ヲ取り誤マルカ又ハ大命
題小命題ノ二者ヲ比較シ誤マルトキハ其斷案モ決シテ真正ノ斷決ヲ
得ルコト能ハス今訴訟法ナルモノハ如何ナル事實ニハ如何ナル法律
ヲ適用スルヤ又其事實ハ如何ニシテ證明スルヤ等ノ規則ヲ研究スル
モノナレハ則チ法律ト事實トヲ比較シテ一ノ判決ヲナスモノニシテ
若シ其法律若クハ事實ノ一ヲ調ヘ誤ルカ若クハ二者ヲ比較シ誤マル
トキハ其裁決モ勿論誤謬タルヲ免カレサル可シ其理タル論理學ノ事
物ノ眞理ヲ辯論スルノ方法ト少シモ異ナルコトナシ實ニ訴訟法ハ法
律學ノ論理法ト云フテ可ナリ
已ニ述ヘタル如ク法律ハ立法官ノ制定スル所ノモノニシテ初メヨリ
豫定スルモノナリ事實ハ人民ヨリ作り出ス所ノモノニシテ初メヨリ

一定スルモノニ非サルナリ而シテ法律アリテ然後ニ事實ノ生スルハ
通常ノコトナルモ只法律アルノミニシテ事實ノ生セサルトキハ法律
ハ活動スルヲ得ス則チ事實ナルモノ生シテ始メテ訴訟起ルモノナリ
若シ法律ノ設ケアルノミニシテ事實生セサレハ實ニ黄金世界ト云フ
可キナリ已ニ法律ハ豫メ一定スルモノナレハ其適用如何ハ判事之ヲ
知ルヲ以テ裁判スルニ當リテ別ニ之ヲ證明スルニ及ハスト雖モ事實
ニ至リテハ裁判官之ヲ知ラス只獨リ代官人之ヲ知ルモノナレハ一ノ
訴訟ヲ提起セントスルニハ必スヤ其事實ノ如何ヲ陳述證明スルヲ要
ス則チ法官ハ法律ノ疑ハシキヲ解釋シ代官人ハ事實ヲ陳述スルモノ
ナリ此ノ如ク事實ヲ陳述スルハ代官人ノ職務ナリト雖モ其陳述ノ眞
否ヲ決スルニハ證明ヲ待タサル可カラス故ニ今一ノ訴訟アルニ當リ
テハ二個ノ必要ノ事アリ第一事實ノ何物タルヲ陳述スルコト第二事

實ハ眞否ヲ證明スルコト之レナリ而シテ其事實ハ如何ナル方法ニヨ
 リ陳述セサル可カラズ其事實ハ如何ナル方式ニヨリテ證明セサル可
 カラサルコトハ自ラ定レリ其事實ヲ陳述スルノ法則ヲ訴答法規ト云
 ヒ其事實ヲ證明スルノ法則ヲ證明法規ト云フ而シテ此ノ二法規ノ法
 律ニ於ケル恰モ車ノ兩輪鳥ノ雙翼アルカ如ク此ノ二法規アリテ始メ
 テ法律ハ活動スルコトヲ得ヘキナリ
 右ノ二法規ハ法律家カ法律ヲ實地ニ活動セシムルニ當リテ暗々裡ニ
 覺得シタル所ノモノニシテ決シテ政府ヨリ發布シタル特定ノ法律ニ
 非サルナリ訴訟法中其事ヲ記セサルニアラスト雖モ只其大畧ヲ示ス
 ニ過キス然リト雖モ判事代人訴訟ヲ取扱フニ當リテ此ノ二法規ニ
 ヨルニ非サレハ其訴訟ヲ充分ニ審理スルコト能ハス凡ソ英法ノ長所
 ハ實地應用ノ術ニ巧ナルニアリ而シテ其實地應用ニ妙巧ナルハ必竟

生産三要
物ノ關係

ヲ奈何トモスル能ハサルヲ以テ皆資本トシテ使用セラレサルヘシ果シテ如此クナラハ國家ノ生産決シテ大ニ發達スルヲ得サルナリ國家ノ開明未タ進マサルトキハ信用ノ路未タ發達セス貸借盛ンニ行ハレス生産ニ從事スルモノ多クハ自己ノ資本ヲ使用セサルヲ得サルモノニシテ退守放銀ハ盛ンニ行ハル能ハサルモノナリ之ニ反シテ國民勞働ヲ厭ヒ進取ノ銳氣ニ乏シク少シク貯蓄ヲ爲セハ早ク己ニ退守ノ計ヲ爲シ左團扇ノ樂隱居ヲ希ヒ退守放銀ヲ主トスルトキハ所謂貸手アリテ借手ナキ勢ヲ生スルヲ以テ資本ノ效驗ヲ大ニスル能ハス亦國家ノ生産大ニ發達スルヲ得サルヘシ由是觀之進取放銀退守放銀相待テ盛ンナルハ國家富實經濟健康ナルノ兆候ト云フヘキナリ

右ニ述フル如ク天然物勞力資本ノ三者ハ生産上必要ノモノニシテ互ニ輔車唇齒ノ關係ヲ相爲シ決シテ欠クヘカラサル者ナリ然ルニ此三

者ハ如何ナル場合ニモ同一ノ度ヲ以テ生産上ニ使用セラル、ニアラ
ス生産ノ種類ニ由リテ三者ノ關係ヲ異ニスヘシ則チ漁獵牧畜耕殖ノ
如キハ天然力ニ依ルコト厚クシテ勞力資本ノ力ニ依ルコト薄ク製造
商業ノ如キハ勞力資力ニ依ルコト厚クシテ天然力ニ依ルコト薄シ是
故ニ草昧ノ世蠻民ノ未タ耕牧ノ業ヲ知ラス僅ニ水ニ漁シ野ニ獵シテ
生計ヲ營ムニ當リテヤ天然力ニ依頼スルコト最モ大ニシテ河海ニ魚
鼈乏シク山野ニ禽獸少ケレハ殆ント饑餓ヲ免レス是ヲ以テ人口増加
シテ漁場廣濶ナラス獵野狹隘ナルニ至レハ遂ニ全然天功ヲ頼ムヲ得
サルニ至ル於是水草ヲ逐テ牧畜ヲ爲シ多少人功ヲ以テ天然力ノ不足
ヲ補ハンコトヲ謀ル是尙當時ハ土地廣濶ニシテ未タ定リタル所有主
トテモ無ク自由ニ水草ノ繁茂スル所ニ就テ家蓄ヲ牧スルヲ得ルヲ以
テナリ然レトモ牧畜ハ尙土地ヲ要スルコト大ナルヲ以テ人口繁殖シ

土地ノ狹隘ヲ覺ユルニ至ル時ハ此業ニ依リテ生計ヲ營ムノ難キヲ以テ更ニ居ヲ定メテ耕殖ヲ爲スニ至ルヘシ何トナレハ耕殖ハ牧畜ニ比スレハ土地ヲ要スルコト割合ニ小ニシテ多數ノ人口ヲ養ヲ得ヘケレハ也此三種ノ營業ハ均シク天然力ヲ要スルコト大ナルモノナレトモ漁獵ノ如キハ天然發生ノ魚鼈禽獸ヲ捕フルヲ業トスルヲ以テ其發生ノ多少ニ至リテハ濫漁暴獵ヲ防クノ外殆ント人力ヲ以テ如何トモスヘカラス故ニ其所在ニ就テ之ヲ捕エント欲セハ地面ヲ要スルコト非常ニ廣大ナルヘク人口稀少ナル時代ニアリテハ適當ノ業務ナレトモ天然力ニ依頼スルコトノ大ナルハ此業ヲ以テ最トス次テ牧畜ハ人功ヲ以テ牛羊雞豚ノ發育ヲ補フコトヲ得ヘキヲ以テ資本勞力ヲ幾何カ要スルコト(即チ小屋ヲ造リテ雨露寒暑ヲ防キ獸害ヲ防禦スル等)ハ増加スレトモ從ツテ天然力ニ依頼スルコトヲ減スヘシ然レトモ耕殖ノ

天然力ニ依頼スルコト少キニ及ハサルナリ尤モ耕殖ハ土地ヲ要スルコト小ナラス氣候ノ變動ニ由リテ收穫ニ豊凶アルヲ免レサルモノニシテ天然力ニ依頼スルコトノ大ナルハ論ヲ待タスト雖モ肥料ヲ以テ土地ノ膏腴ヲ増スヘク堤防ヲ築キテ洪水ヲ防クヘク水道ヲ通シテ田地ヲ灌漑スヘク又雜草ヲ芟除シテ植物ノ被害ヲ除キ深ク鋤鋤ヲ加エテ地味ノ良質ヲ採ル等資本勞力ノ力ヲ逞フスルヲ得ルコトモ亦少ナカラス之ニ反シ製造業ノ如キハ土地ヲ要スルコトハ器械塲倉庫等ヲ置クヲ得レハ足リ業ヲ執ルニハ多クハ春夏秋冬ヲ擇ハス年ニ豊凶ノ患ナク其要スル處ノモノハ重ニ器械建物粗生品勞力者ニシテ其成否ハ殆ント全ク人力ノ如何ニ在ルモノト云フヘク資本勞力ニ依ルコト甚タ大ニシテ天然力ニ依ルコト甚小ナリ故ニ開明進歩シ人口充溢スルニ至ルトキハ專ラ土地ニ依リテ生計ヲ營ムコトヲ得ス製造ノ業盛

ンニ起ルハ自然ノ勢ト云フヘキナリ由是觀之ハ諸營業ノ發達スルヤ
自然ノ順序アルモノニシテ其時代ニ應シテ經濟ヲ行フトキハ則チ所
謂最小ノ勞費ヲ以テ最大ノ結果ヲ得ヘキナリ蓋シ強テ人力ヲ以テ時
代ニ應セサル營業ヲ起サント欲スルトキハ却テ天然ノ利益ヲ棄テ、
不利益ニ就クモノニシテ勞費大ナルモ其收ムル所ノ結果ハ大ナルヲ
得サルナリ或ハ云ハン太古蒙昧ノ人民ニシテ資本モ無ク又牧畜ノ業
ヲモ知ラサレハ漁獵ヲ事トスルノ外如何トモスル能ハサルヘク未開
ノ民ニシテ耕耘ヲ知ラス資本ニ乏シケレハ牧畜ヲ爲スノ外如何トモ
スル能ハサルヘシ然ルニ今日開明ノ人民ニシテ資本ニ乏シカラス耕
耘紡織ノ業一トシテ知ラサル所ノモノナケレハ何ソ如此順序ニ依リ
テ事業ヲ執ルヲ須ンヤ天然力ニ依頼スルコトノ大ナル事業ハ却テ危
險多シ寧ロ人力ヲ逞スル所ノ諸業ニ就クニ如カサルヘシト其言ヤ一

理アルカ如シト雖モ尙之ヲ熟考スルトキハ決シテ其然ヲサルヲ知ラ
ン未開ノ人民ハ資本勞力ヲ以テ天然力ヲ利用スルヲ知ラサルヲ以テ
天然力ニ依頼スルコト大ニシテ之ヲ使用セス故ニ其生産力小ニシテ
危険モ亦大ナリ然ルニ開明ノ人民ハ能ク天然力ヲ利用スルヲ知ル是
故ニ天然力ヲ用ユルコト小ニシテ資本勞力ヲ用ユルコト大ナレハ生
産ノ勞費ハ從ツテ大ナラサルヘカラス生産ノ勞費大ナレハ從ツテ生
産ノ結果小ナラサルヘカラス左レハ生産上天然力ヲ利用スルコト大
ナル程其結果ノ割合ニ大ナルヲ得ヘキナリ土地餘リアリ人口未タ稠
密ナラサルニ當リテハ勞力ニ乏シク而シテ土地ノ生産力ハ甚タ大ナ
リ此時ニ當リテハ天然力ヲ使用スルコトノ大ナル事業ニ資本勞力ヲ
用フレハ其効驗ハ他ノ事業ニ用ユルヨリ大ナルヲ常トス例エハ土地
廣大ニシテ僅ニ種子ヲ播ク勞ヲ取りテ其收穫莫大ナル時代ニ當リ徒

ラニ製造ノ業ヲ營ミ木綿ヲ造出スルモ決シテ收支相償ハサルヘシコ
レ前陳營業發達ノ順序ニ從フハ其勞費最モ小ニシテ生産ノ結果最モ
大ナルカ爲メナリ夫レ人々經濟ノ目的トスル所ハ勞費ハ成ルヘク小
ナランヲ欲シ報酬ハ成ルヘク大ナランコトヲ欲スルヲ以テ其勞ト報
トヲ相比較シテ勞ノ割合ニ報ノ大ナルモノニ就クハ自然ノ勢ナルカ
ユヘニ天然力ヲ使用スルコトノ大ナル事業ヲ執ルハ又自然ノ勢ト云
ヘキナリ試ミニ英國殖民地ノ經濟ノ形况ヲ見ヨ皆其初メ執ル所ノ業
ハ伐木牧畜耕耘ニシテ初メヨリ製造ノ業ヲ起スモノナキニアラスヤ
自然ニ生長シタル樹木ヲ伐採スルハ勞費ノ最モ小ナルカ爲メナリ牧
畜耕耘ヲ事トスルハ其土地廣漠ニシテ牧畜ニ適シ地力豊富ニシテ耕
殖ニ利アルカ爲メナリ何ソ天賦ノ國ニ居テ初メヨリ齟齬トシテ勞費
ノ多キ事業ニ就クモノアランヤ

右ノ理由ナルヲ以テ土地ノ耕殖ヲナスニモ初メヨリ沼澤ヲ疏シ瘠嶮
ヲ披キ大ニ資本勞力ヲ費スモノニアラス人口ノ未タ稀少ナルニ當リ
テヤ土地餘アレトモ勞力足ラス資本裕カナラス故ニ先ツ地味ノ最モ
膏腴ニシテ運輸ノ最モ便ナル所ヨリ其耕殖ヲ始ムヘク其方法モ亦寬
大ニシテ力メテ勞費ノ少ナカラシムニ欲シ僅ニ中央ノ地ヲ耕耘スルニ
過キサルヘシ是レ頗ル疎漏ナルカ如クナレトモ土地ノ餘リアル時ニ
ニ當リテハ復カニ土地ヲ使用スルノ容易ニシテ勞力ヲ省クコトノ大
ナルヲ以テナリ歐洲人ハ北米合衆國ノ農業ノ景況ヲ見テ其疎漏ナル
ニ驚ケリト云フコトアレトモ其疎漏ナル農業ヲナスハ方今合衆國ノ
經濟ニ於テ其利ナルカ爲メナリ然レトモ人口ノ増加スルニ從テハ小
兒カ饑餓ノ餓ヲ食フテ皮ヲ殘スカ如キ放逸ノ所業ヲ爲シテハ十分ノ
食ヲ得ル能ハサルニ至ルヲ以テ漸次劣等ノ地ヲ使用シ瘠地ニ肥料ヲ

施シテ之ヲ肥ヤシ道路ヲ建築シテ遙ニ生産物ヲ運輸スルヲ謀リ又從來中央ノミ耕シタル土地モ今ハ隅々マテ鋤鋤ノ入ラサルナキニ至ルヘク農業ノ方法漸ク高度ニ達シ資本勞力ヲ費スコト次第ニ大ナルヘシ我邦農況ノ如キコレナリ

今圖ヲ以テ前陳耕地擴張ノ景況ヲ示サン此ニ圖ノ如キ一國アリトセシニ其地味ノ肥瘠ハ決シテ一樣ナルモノニアラサル方故ニ假ニ甲乙丙丁ノ四種アリトシ甲地ハ地味ノ最モ豐饒ナルモノトシ乙地之ニ次キ丙地ハ又乙地ニ次キ丁地ハ最モ瘠貧ノ地トシ而シテ人民ノ居ヲ占メタルハ中央ノ處府トセン然ルトキハ其人民ハ先ツ地味ノ最モ肥沃ニシテ且ツ運輸ノ最モ便利ナル地即甲一ノ地ヲ耕ヤスヘシ何トナレハ此地ハ平地ニシテ山川等ノ運輸ヲ妨クルモノナシト假定セハ居住地ニ近キ處ハ運輸ノ便最モ大ナレハナリ然レトモ人口増加シテ甲一

ノ地ヲ耕ヤスノミニテハ居民ノ食ヲ得ル能ハサルニ至レハ甲二若ク
 ハ乙一ノ地ヲ耕ヤスニ至ルヘシ何トナレハ甲二ハ地味ハ豊饒ナレト
 モ少シク居住地ニ遠キヲ以テ運輸ノ不便アリ乙一ハ其近キカ爲メニ
 運輸ハ至便ナレトモ甲二ノ地味豊饒ナルニ及ハスシテ二地ノ生産力
 ハ凡ソ相同シカルヘケレハナリ尤先ツ甲二ヲ耕ヤスカ乙一ヲ耕ヤス
 カハ其實際ニ於テ生産力ニ差アレハ其最モ大ナルモノヨリ始ムヘキ



ハ論ヲ待タス次テ人口増加シ甲一甲二乙一ノ地ヲ以テ食物ヲ給スルニ足ラサルニ至レハ更ニ前陳ノ理ニ由リ甲三乙二若クハ丙一ノ地ヲ耕ヤスヘク又進ンテ甲四乙三丙二若クハ丁一ノ地ヲ耕ヤスニ至ルハシ

(注意)

專修學校經濟學講義筆記(經濟大意)第四號ニ右ト相似タル圖アリ尤此處ノ説明トハ少シ趣キヲ異ニスルノミ

其然ル所以ノモノハ人口未タ稀ニシテ土地充分ニ餘アルトキハ農産物ノ價甚タ低キカ爲メニ地味瘠貧ニシテ運輸ノ不便ナル土地ヲ耕ヤスハ勞費ノ大ナルノミニシテ收支相償ハス然ルニ人口ノ増加スルニ從ツテ食物ノ需用増加シ其價騰貴スルヲ以テ資本勞力ヲ費ヤスコト大ナルモ尙收支相償ナフニ至ルヲ以テナリ英國ノルフォークノ地ハ

今ハ豐饒ナル土地ナレトモ往昔ハ甚タ瘠地ニシテ殆ント耕作ヲナサ
 ヲリシモノナリ其經歷ヲ聞クニ初メ此地ニ「トルニップ」ヲ殖タルニ起ル
 ト云フ元來「トルニップ」ハ人間ノ食用トモナルモノナレトモ之ヲ以テ羊
 ナ畜フニ適當ナルモノナルヲ以テ之ヲ播殖シテ羊ヲ畜フトキハ羊糞
 ノ爲メニ大ニ土地ヲ肥スコトヲ得ヘシ則チ此ノルフオルクノ地ヲシ
 テ豐饒ニ至ラシメタルハ此方法ニ依リシモノナリ余嘗テ聞ク往時姫
 路ノ藩ニ河合某ト云フモノアリ理財ノ才ニ長ス藩主ニ請フテ赭山ノ
 草木モナキ所ニ辛菜ノ種ヲ施コシ遂ニ耕地トシテ使用スルニ至レリ
 ト云フ蓋シ辛菜ハ我國ニ於テハ殆ント野生ノ植物ニモ均シク容易ニ
 生長スルヲ以テ一度此種ヲ施ストキハ毎年種ヲ施サ、ルモ其散亂シ
 タル種ヨリ翌年再ヒ成長スヘク之ヲ措クコト三四年ナルトキハ敢テ
 大ニ勞力ヲ加ヘサルモ一莖ノ青草ナキ不毛ノ地カ植物ノ腐敗ニ依リ

テ豊カニ肥ヘ遂ニ耕地トスルヲ得ヘキナリ如斯ク東西各々少シク其
方法ヲ異ニスルモ人口増加シテ土地狹隘ヲ覺ユルニ至レハ自然ノ勢
一轍ニ出スルヲ見ルヘシ

左レハ土地アリト雖モ人口乏シケレハ勞力足ラサルヲ以テ十分ニ之
ヲ使用スルヲ得ス又土地人口アリト雖モ貧ニシテ資本ニ乏シケレハ
大ニ土地勞力ノ力ヲ利用スルヲ得サルヘシ之ニ反シテ勞力資本アリ
ト雖モ土地ニ餘力ナケレハ生産上ノ勞費大ナルヘク勞力資本ノ生産
力ヲ増スニアラサレハ生産ノ結果甚タ小ナラサルヲ得ス故ニ國家ノ
生産ヲシテ大ニ盛ンナルヲ得セシムルハ生産要物三者ノ比例宜キヲ
得ルヲ以テ必要トス方今英國ノ如キハ富貴ニシテ人口稠密資本勞力
餘リアリト雖モ土地狹隘ニシテ殆ント地ニ餘力ナク農産ノ乏シキヲ
苦ムヲ免レス東印度ハ土地廣濶肥沃人口繁殖シ土地勞力ハ餘リアリ

ト雖モ貧ニシテ常ニ資本ノ乏シキヲ憂フ西印度ハ千八百三十三年奴隸解放以前ニアリテハ土地勞力資本共ニ備具シテ頗ル繁榮ヲ極メタリト雖モ黑奴自由ヲ得テヨリ勞力乏シキヲ告ケ方今ハ土地沃饒餘リアリ資本家ハ英國人ニシテ其供給裕カナリト雖モ衰退ノ色アリ之ニ反シテ合衆國ハ沃野千里人口ハ細密ナラスト雖モ勞力ノ缺乏ヲ苦ムニ至ラス加フルニ資本充實シ殆ント三者ヲ兼備シタルモノ合衆國ノ如キモノハアラサルナリ之ヲ以テ英國ハ其富天下無雙方今尙ホ其富ヲ増加セサルニアラスト雖モ稍靜止ノ態アリ而シテ合衆國ハ其富殆ント將ニ英國ヲ壓シ尙駸々増加ノ勢萬國ニ冠タルモノハ抑モ故アルナリ近來英國ノ統計家マルホール氏カ世界ノ富ノ増加ヲ調査シタリト云フヲ見ルニ方今諸國ニ於テ毎年富ノ増加スル總額ハ凡ソ二十四億五千萬圓ニシテ其比較左ノ如シ

萬國法律週報發行廣告

每週金曜日出版●一冊定價金四錢五厘●八冊豫約前金三十貳錢●十六冊同六拾錢●三十二冊前金壹圓八錢●六十四冊同壹圓九拾錢●但東京區外并各地方遞送ハ別ニ一冊ニ付郵稅壹錢宛申受ケ候●郵便切手代用ヲ禁ス

主筆、英吉利法律學校幹事兼講師 法學士 正七位 渡邊安積

今ヤ我日本帝國ハ條約改正ヲ決行シ全國ヲ開放シ外人ノ雜居ヲ許シ裁判權ヲ恢復シ内外人ヲ問ハス一律ニ我國法ヲ以テ之ヲ處セントス是レ實ニ我國ヲシテ文明國ノ列ニ加ヘ眞正獨立ノ一帝國タラシムル者ニシテ我國民タル者各應分ノ力ヲ出シテ以テ國家ニ盡スヘキノ期ハ抑モ今日ヨリ急且切ナルハナシ就中法律學ヲ以テ己レカ職トスル者ニ至リテハ須ク其技能ヲ盡シ一方ニ於テハ我國法律ノ改良ヲ補翼シ他ノ一方ニ於テハ同胞三千七百萬人ヲシテ法律上ノ智識ヲ涵養セシムルコトヲ勉メサルヘカラス法學士渡邊安積先生大ニ茲ニ慨スル所アリ英吉利法律學校諸氏ノ補助ヲ借り萬國法律週報ヲ發行シ以テ聊カ前述ノ本分ヲ盡サントスルノ舉アリ乃チ本店ニ於テ之ヲ發行シ廣ク國內ニ頒布セント欲ス

明治十九年十一月

萬國法律週報發行所

法律書店

錦

水

堂

萬國法律週報廣告

今般萬國法律週報發兌候ニ付校
外生諸君ノ爲メ錦水堂ト特約ヲ
結ヒ八冊前金二十四錢ヲ以テ賣
渡シ候但シ東京區外ハ一冊ニ付
郵税金一錢ヲ申受ケ候

萬國法律週報第十一號出版セリ●第十
號目次○判決例並註解(渡邊安積)○損害
賠償ヲ論ス(渡邊安積)○法科大學火曜會
討論筆記○田中佐々岡兩氏ノ刑事答案ヲ
讀ム(川村綱太郎)○週報○雜件●第拾壹
號目次○英吉利不動産法の概畧(渡邊安
積)○罰金ハ相續人ヨリ徵收スルコトヲ
得ル乎(畔上啓策)○占有ノ何物タルヲ論
シ併ヒテ住の江氏ノ或ヲ解ク(佐野春五)
讀藤井乾助君刑事答案(守山友芳)○攻法
會討論筆記○雜件

英吉利法律學校

法學士山田喜之助先生著

英親族法

洋裝美本全壹冊
實價金九十五錢
郵稅二十六錢

親族法ハ夫妻親子後見人被後見人等ニ關
スル一切ノ法理ヲ網羅詳論スルモノニシ
テ所謂身分法ト云フモノナリ而シテ本書
ハ特ニ注意シテ家族ノ財産制度ヲ反覆叮
嚀ニ説明シ英米古代習慣ヨリ現行法ニ論
及シタレハ方今社會的ノ論議ノ盛ンナル
時ニ當リテハ獨リ法律家ノミナラス我日
本國ノ社會ヲ再造シテ歐米ノ如クナラシ
メントスルノ志士ハ希クハ潜心熟讀取捨
スル所アルヘキナリ

東京日本橋區久松町十五番地

博文堂

發兌書肆 原田庄左衛門

○第一科教課及受持講師姓名
 第一學年

一法學通論每週一時法學士 山田喜之助
 一契約法全二時法學士 土方寧
 一私犯法全上法學士 奧田義人
 一親族法全一時法學士 山田喜之助
 一日本刑法全上法學士 岡山兼吉
 一代理法全上米國法律學士 菊池武夫
 一動產委託法全上法學士 元田肇
 一組合全上法學士 松野貞一郎
 一英語學全上菅沼達吉
 ●英國刑法全上法學士 澁谷惺爾
 ●論理學全上法學士 坪井九馬三
 ●羅馬法全上法學士 渡邊安積
 ●判決例全上法學士 植村俊平
 ○理財學全上法學士 駒井重格
 ○第二學年
 一賣買法每週一時法學士 高橋捨六
 一不動產法全上法學士 伊藤悌治
 一動產法全上法學士 山田喜之助

○ハ參考科
 ○ハ科外

一財產法全上法學士 增島六一郎
 一證據法全上法學士 渡邊安積
 一會社法全上法學士 植村俊平
 一流通證券法全上法學士 土方寧
 一商船法全上法學士 高橋健三
 一治罪法全上法學士 松野貞一郎
 一訴訟法全上法學士 增島六一郎
 一民擬律擬判全上法學士 菊池武夫
 一判決例全上法學士 植村俊平
 一英語學全上菅沼達吉
 ●米國法律全上米國法律學士 シドモル
 ●民訴訟演習全上工藤繁人
 ●刑法學全上關藤直彦
 ●法理學全上法學士 高橋健三
 ●成法理論全上法學士 伊藤悌治
 ●保險法全上法學士 植村俊平
 ○國際公法全上法學士 植村俊平
 ○第三學年
 一財產法全上法學士 增島六一郎
 一破產法全上法學士 戶水寬人

一 訴訟 法全上はりすどる 士増島六一郎
 一 保險 法全上はりすどる 士伊藤悌治
 一 衡平 法全上はりすどる 士土方寧
 一 沿革法理學 法全上はりすどる 士増島六一郎
 一 分析法理學 法全上はりすどる 士關直彦
 一 羅馬法 法全上はりすどる 士渡邊安積
 一 國際公法 法全上はりすどる 士植村俊平
 一 國際私法 法全上はりすどる 士山田喜之助
 一 判決 例全上はりすどる 士植村俊平
 一 民擬律擬判 法全上はりすどる 士菊池武夫
 一 刑擬律擬判 法全上はりすどる 士高須重明
 一 英語 法全上はりすどる 士植村俊平
 一 憲法 法全上はりすどる 士高須重明
 一 行政 法全上はりすどる 士植村俊平
 一 米國法律 法全上はりすどる 士江木衷
 一 動產差押法 法全上はりすどる 士江木衷
 一 訴訟演習 法全上はりすどる 士江木衷
 ○ 第二科教課及受持講師姓名
 一 第一學年
 一 英法註釋 每週 法學士 山田喜之助

一 アンソンの契約 法全上はりすどる 士土方寧
 一 スミスの契約 法全上はりすどる 士土方寧
 一 アンダーヒルの契約 法全上はりすどる 士同
 一 私犯 法全上はりすどる 士小村壽太郎
 一 アダムの私犯 法全上はりすどる 士同
 一 私犯 法全上はりすどる 士同
 一 ストリの代理 法全上はりすどる 士菊池武夫
 一 ストリの代理 法全上はりすどる 士同
 一 動產委託 法全上はりすどる 士元田肇
 一 ケントの親族 法全上はりすどる 士山田喜之助
 一 ボロックの組合 法全上はりすどる 士松野貞一郎
 一 スミスの訴訟 法全上はりすどる 士澁谷慥爾
 一 ハリスの訴訟 法全上はりすどる 士同
 一 英國刑法 法全上はりすどる 士同
 一 スミスの商 法全上はりすどる 士伊藤悌治
 一 テリーの法律原論 法全上はりすどる 士藤田隆三
 一 セボンの法律原論 法全上はりすどる 士澁谷慥爾
 一 論理 法全上はりすどる 士坪井九馬三

法學士高橋捨六先生著

法學士山田喜之助先生著

法學士高橋捨六先生著

英米身分法

洋製美本全一册
定價拾九錢

十月十五日發兌

身分法とは一に親族法とも稱し婚姻離婚を始め夫婦親子後見人及び主人奴僕等に關する法理を網羅詳論せるものなり殊に本書は高橋先生一には專修學校の教科用ニ供せんが爲め況く英米の法典を參照し章を分て節とし節を分て則とし專はら簡易明解を主とせられたる著述なれば俗も一部の法典を見るに異ならず故に法律に志すの人は勿論苟も親たり夫妻たり後見人たる身分ある人は熟讀し賜ふべき良書たり尙購讀者諸君の便宜を計り目錄書并に見本を調製し置たれば左店の中へ貳錢郵券寄送次第進呈す

神田區表神保町一番地角

英吉利法律學校

教科書賣捌所

錦水堂

銀座三丁目

發賣所

博聞社

法學士山田喜之助先生著

增訂英國私犯法

第三版美裝洋本
全一册
定價七十五錢
郵稅不受

英國私犯法ハ英米法律ノ精華ニシテ民事上ニ於ケル吾人ノ權利義務ヲ詳論シ損害賠償ノ軌範ヲ示シ他ノ諸種ノ法律ニ比スルニ原則ノ類最モ多ク且重要ナルモノニシテ法律ヲ學ブ者先ツ此ヨリ悟入シ以テ法律思想ノ根底ヲ培養セサルヘカラス羅馬法律佛蘭西ノ如キハ私犯法ヲキニ非スト雖モ之ヲ一大法類トシテ精覈シタルモノナシ此編ハ則チ其遺漏ヲ補フモノニシテ向キニ大學法學部專門學校英吉利法律學校等其無數都鄙ノ官私法學校ノ教課用書ニナリタルヲ今般増訂ノ上第三版ヲ發兌スルニ至レリ著者ニ於テ非常ノ注意ヲ以テ前版ノ誤謬ヲ正シ有益ノ材料ヲ增加セラレ活版印刷モ亦甚タ鮮明ナリ江湖ノ法曹一本ヲ購フテ座右ノ珍トナシ玉ヘ

東京京橋區三十間堀一丁目

發兌書舖

九春堂

法學士渡邊安積講義

アンソ
ン氏**契約法**第十五編 定價金拾錢
郵税金貳錢

第一、四、六、七、八、九、十一編ハ各八錢ツ、
第二、三、五、十、十二、十三編ハ各拾錢ツ、
アンソ
ン氏契約法ハ英吉利契約書中最モ
新シク最モ精覈ノモノニシテ英國大學校
我帝國法科大學及英吉利法律學校等ニ於
テ教課書トナス者ナリ本書ハ慣習法衡平
法制定條例等ノ中ヨリ契約ニ關スル規則
ハ悉ク網羅シ英國現行法ハ一モ洩ス所ナ
シ●本書ハ先キニ出版ニ着手シタル以來
大ニ江湖諸君ノ愛讀ヲ辱シ許多ノ冊數ヲ
賣盡シタルニ不幸ニモ講義者事故アリテ
久シク中絶ノ姿ニ相成リ愛讀諸君ヨリ頻
リニ督促ヲ蒙リ恐縮ノ至リニ堪ヘス然ル
ニ今日ヨリ再ヒ舊業ヲ繼キ續々殘編ヲ出
版シ速ニ竣功スルコトヲ期スヘシ
但初編ヨリ御入用ノ御方ヘハ全部取揃ヘ
差出可申候

神田區神保町一番地

錦水堂

THE IGIRISU HORITSU

GAKKO TEXT-BOOK 英文法

律書

第一、二、三、四、五六號出版セリ
第六號目次○ブルーム氏英法註釋○アン
ダーヒル氏私犯法○スミス氏訴訟法○マ
イクビー氏法理原論○シドモール氏合
衆國領事裁判訴訟法

神田錦町 神田小川町通

英吉利法律學校 錦水堂

明治二十年一月二十二日(定價金貳拾錢)

持主 增島六一郎

印刷人 大谷木備一郎

編輯人 澁谷慥爾

發行所 神田錦町貳丁目貳番地
英吉利法律學校